

新型コロナウイルス感染症の影響調査 集計結果

2023年1月18日

宮城県がん診療連携協議会
がん登録部会

データ集計
宮城県立がんセンター研究所
がん疫学・予防研究部
金村 政輝
kanemura@med.tohoku.ac.jp

調査の方法

- 目的
新型コロナウイルス感染症の影響により、どの程度の診断・治療の遅れが生じたのかを明らかにする。
- 実施時期
2022年9月28日依頼
2022年10月24日提出期限
- 調査対象
2017～2021年診断症例（国立がん研究センターに提出した症例）
- 調査項目
右に示す24項目
- 集計・分析
年別・月別の登録数と治療開始までの日数を集計・分析（全施設合計・施設別集計）
* 部位の区分については、がん検診の対象部位（胃、大腸、肺、乳房、子宮頸部）とし、原発部位の局在コードと形態コードを使い、全国集計と同様の方法で分類

	項目名
1	性別
2	診断時年齢
3	原発部位《局在コード》
4	原発部位《形態コード》
5	診断日
6	診断施設
7	治療施設
8	症例区分
9	来院経路
10	発見経緯
11	進展度（治療前）
12	進展度（術後病理学的）
13	外科的治療の有無
14	外科的治療の施行日（自施設）
15	鏡視下治療の有無
16	鏡視下の施行日（自施設）
17	内視鏡的治療の有無
18	内視鏡的の施行日（自施設）
19	放射線療法の有無
20	放射線療法の施行日（自施設）
21	化学療法の有無
22	化学療法の施行日（自施設）
23	内分泌療法の有無
24	内分泌療法の施行日（自施設）

収集症例数

	2017	2018	2019	2020	2021	総計
宮城県立がんセンター	1,907	2,001	1,983	1,993	2,032	9,916
東北大学病院	3,533	3,633	3,999	3,651	4,016	18,832
東北労災病院	1,200	1,279	1,199	1,150	1,215	6,043
仙台医療センター	1,825	1,816	1,894	1,814	1,910	9,259
東北医科薬科大学病院	1,272	1,430	1,446	1,497	1,741	7,386
大崎市民病院	1,968	1,970	2,023	1,992	2,122	10,075
石巻赤十字病院	1,975	2,047	1,976	2,061	1,959	10,018
みやぎ県南中核病院	802	882	984	852	927	4,447
総計	14,482	15,058	15,504	15,010	15,922	75,976

収集症例数と責任症例数

収集症例数

	2017～2019年 平均	2020年	2021年
症例数	15,015	15,010	15,922
前年との差	—	-5	907
差%	—	-0.03%	6.08%

責任症例数

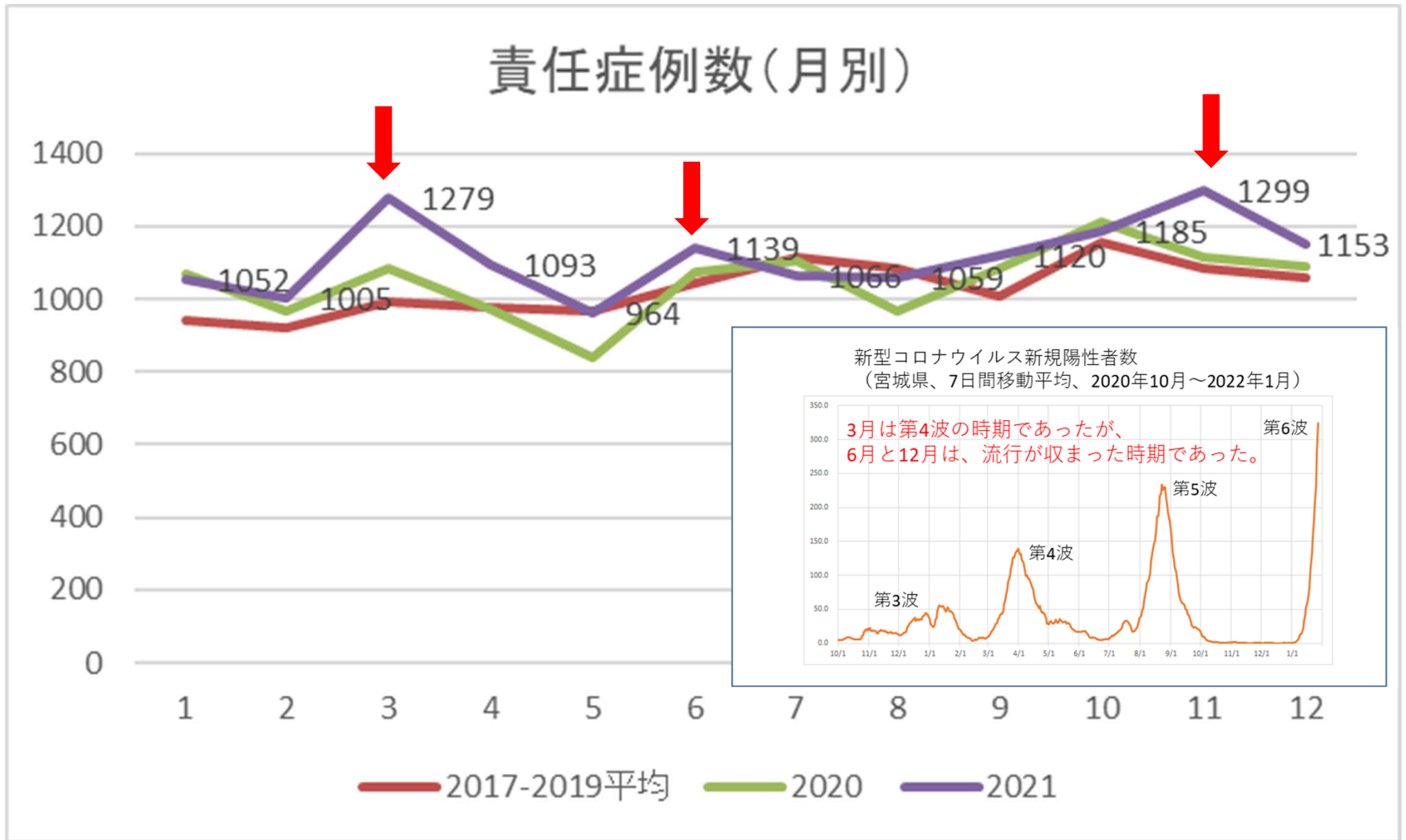
...自施設診断で自施設治療開始または治療継続
もしくは、他施設診断で自施設治療開始または治療継続 の症例
以下、この責任症例を対象として集計

	2017～2019年 平均	2020年	2021年
症例数	12,352	12,573	13,414
前年 との差	0	221	841
差%	0	1.79%	6.69%

コロナの流行にも関わらず、がん登録の症例は増加

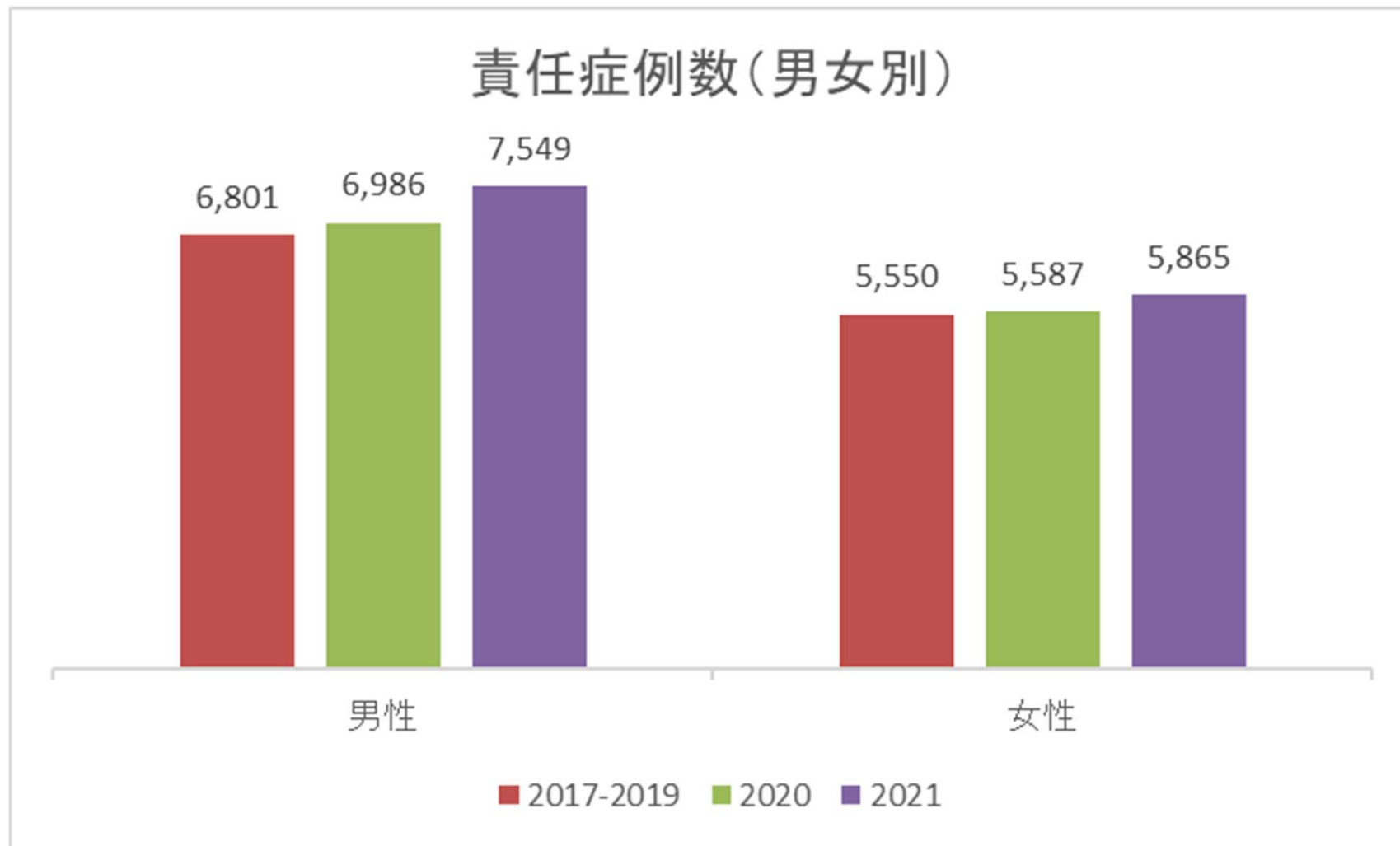
1 全施設合計・責任症例数

3月、6月、11月の3つのピークがあった。
このことが全体の増加につながった。



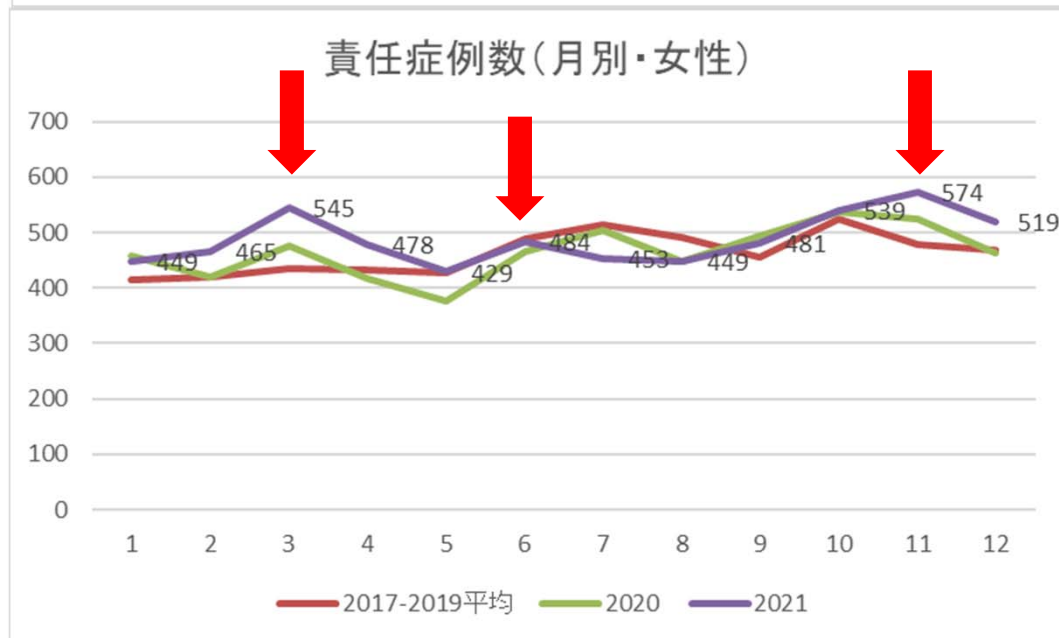
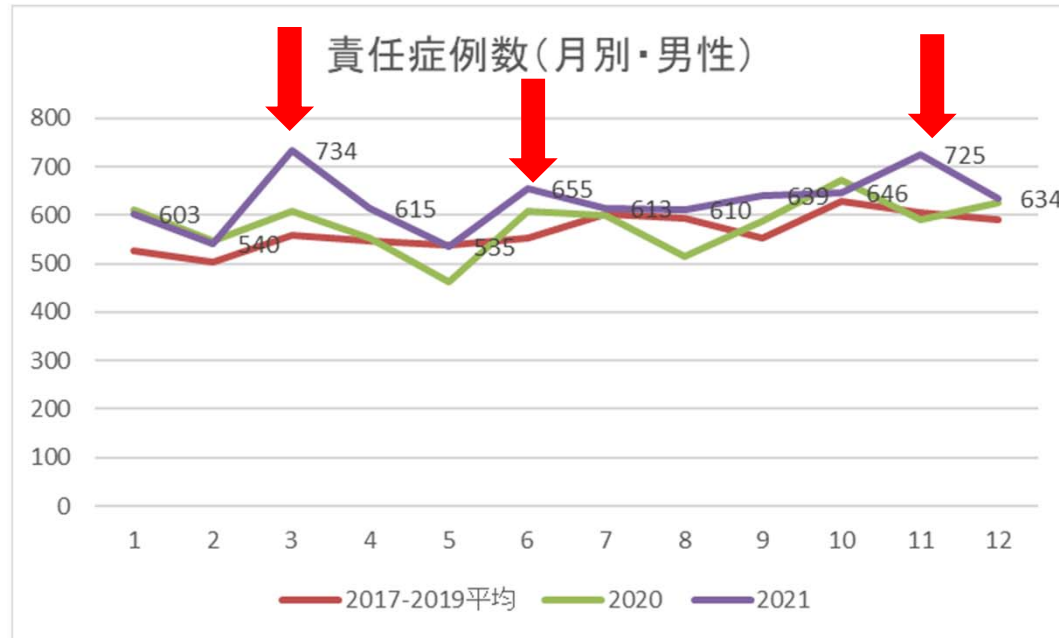
1 全施設合計・責任症例数・男女別

男女ともに2021年は増加した。



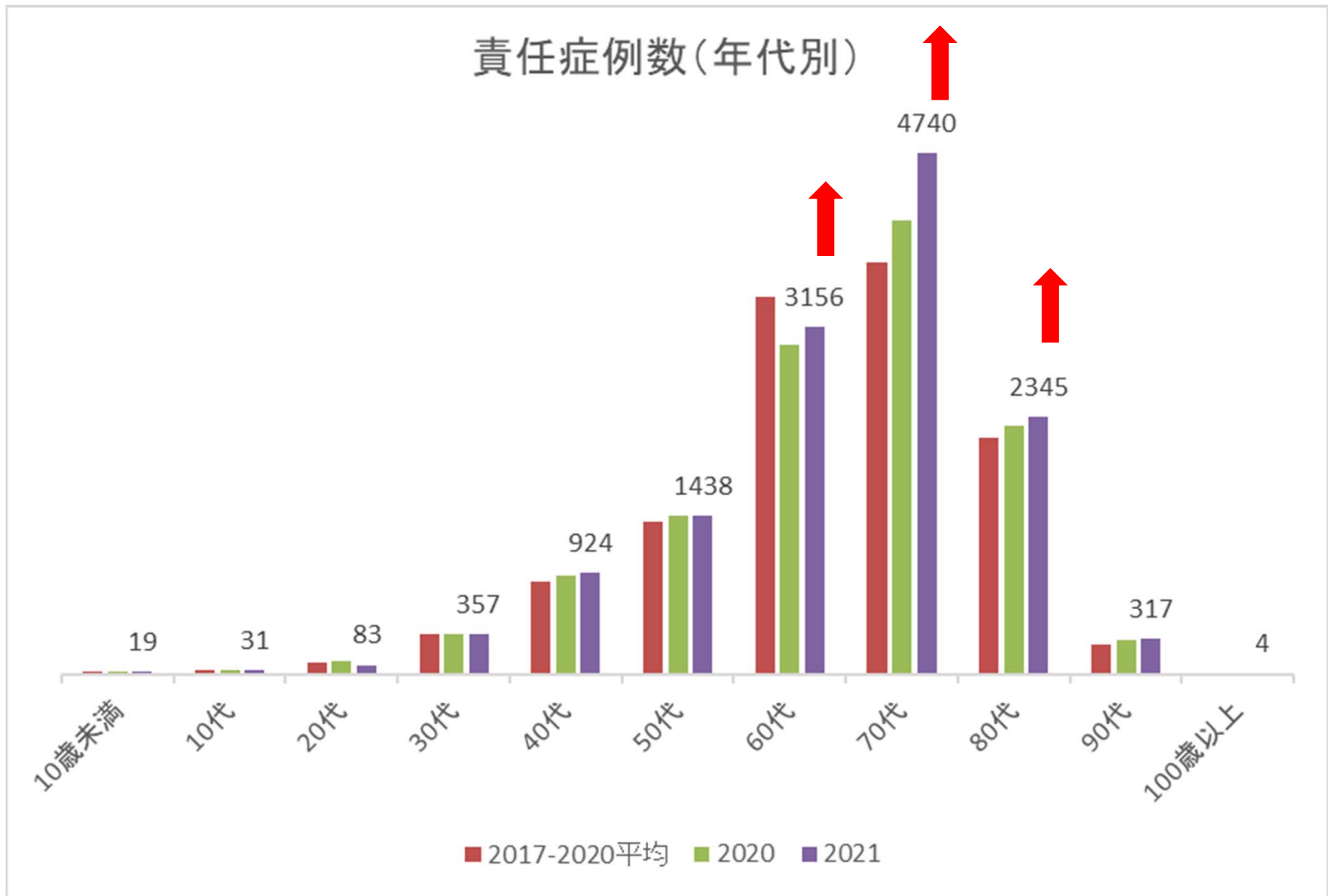
1 全施設合計・責任症例数・男女別

男女別でみても、3月、6月、11月の3つのピークがあり、性別による違いはなかった。
男性では7～9月も高い値を維持した。



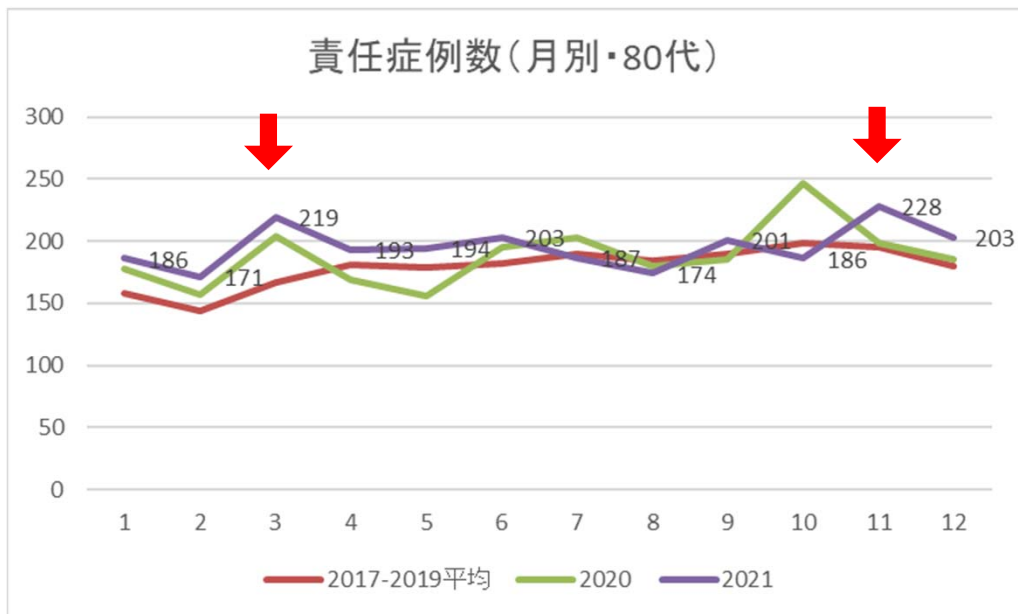
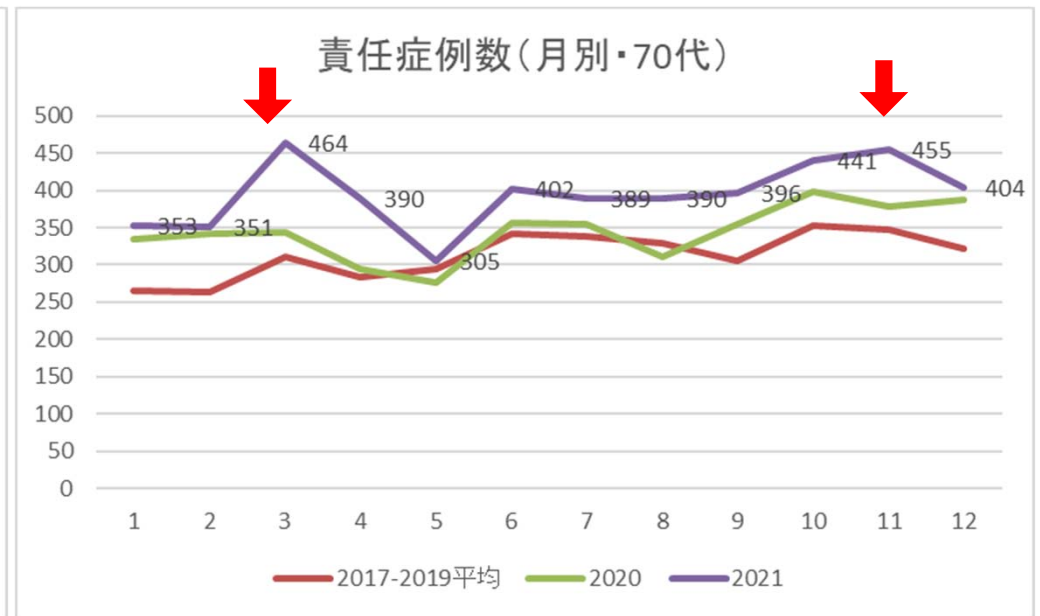
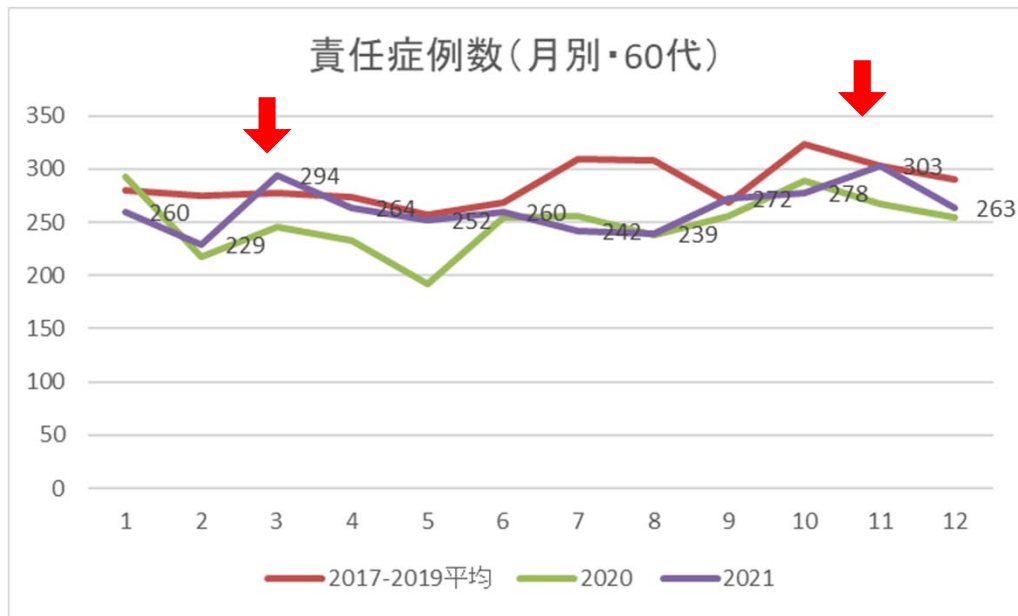
1 全施設合計・責任症例数・年代別

年代別では、60代～80代での増加が、全体の増加に寄与。



1 全施設合計・責任症例数・年代別

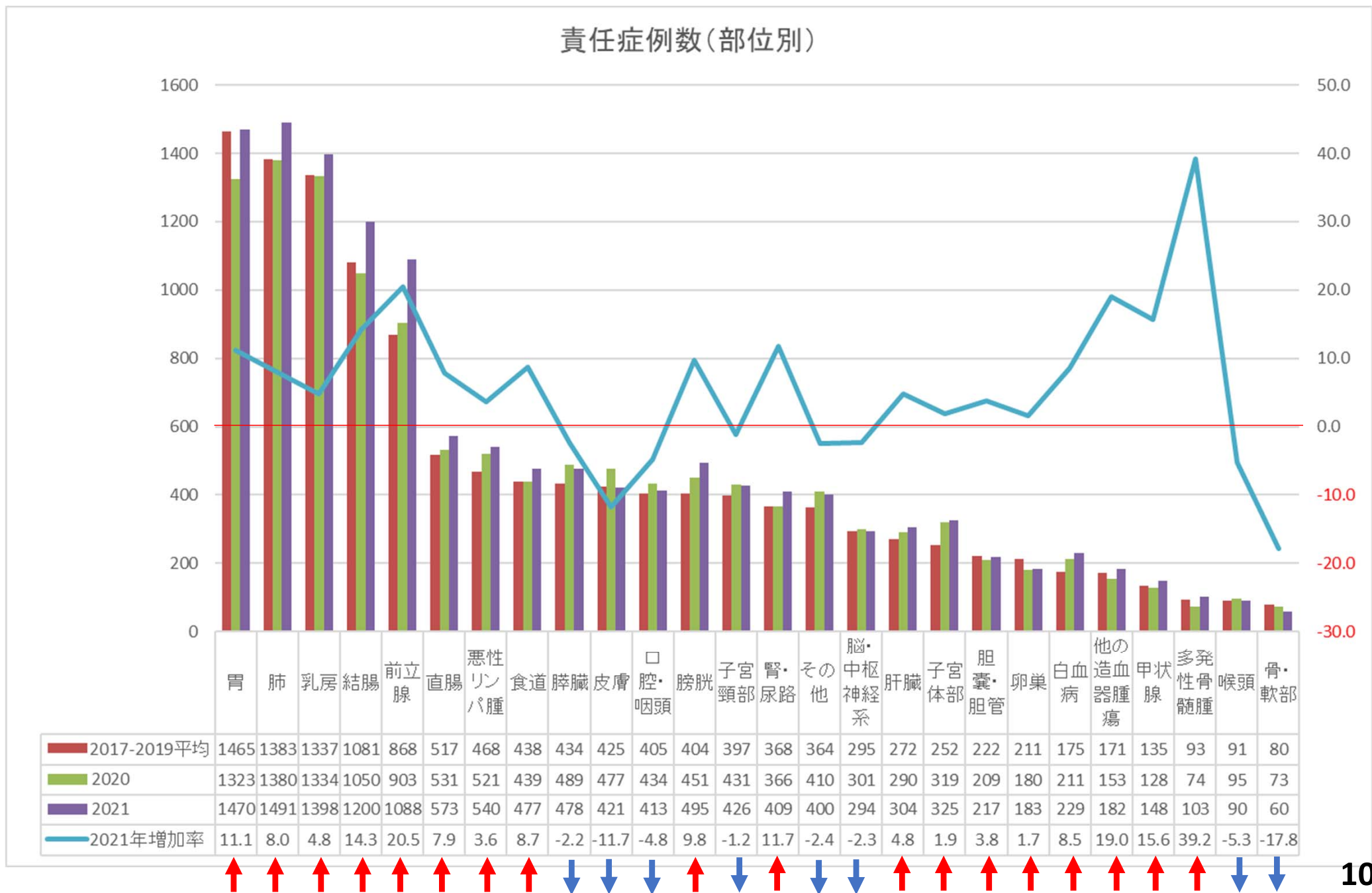
増加した60代~80代を月別で見ると、3月~5月、11月に増加。
70代では、すべての月で増加していた。



1 全施設合計・責任症例数・部位別

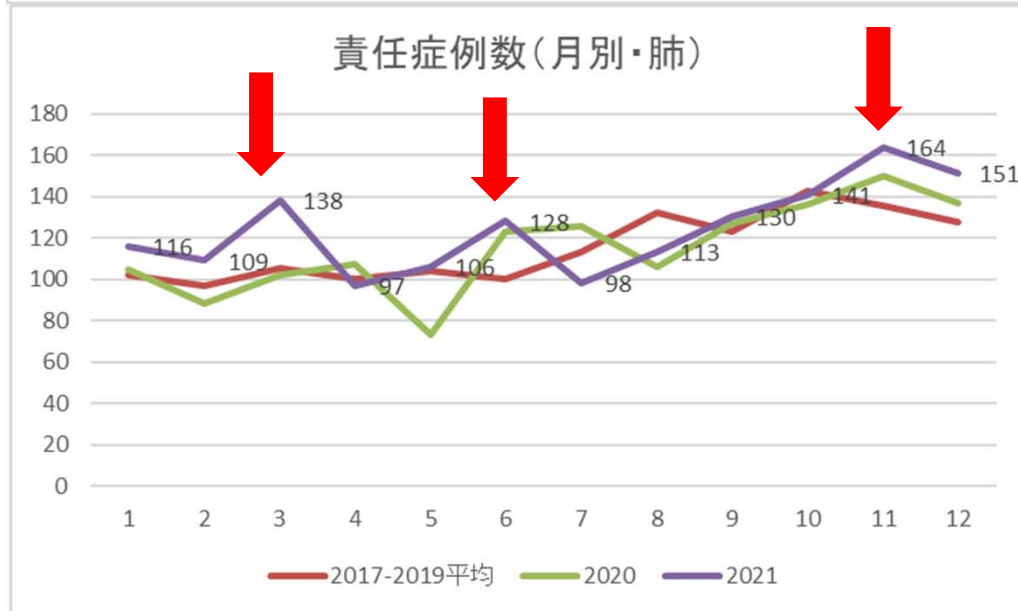
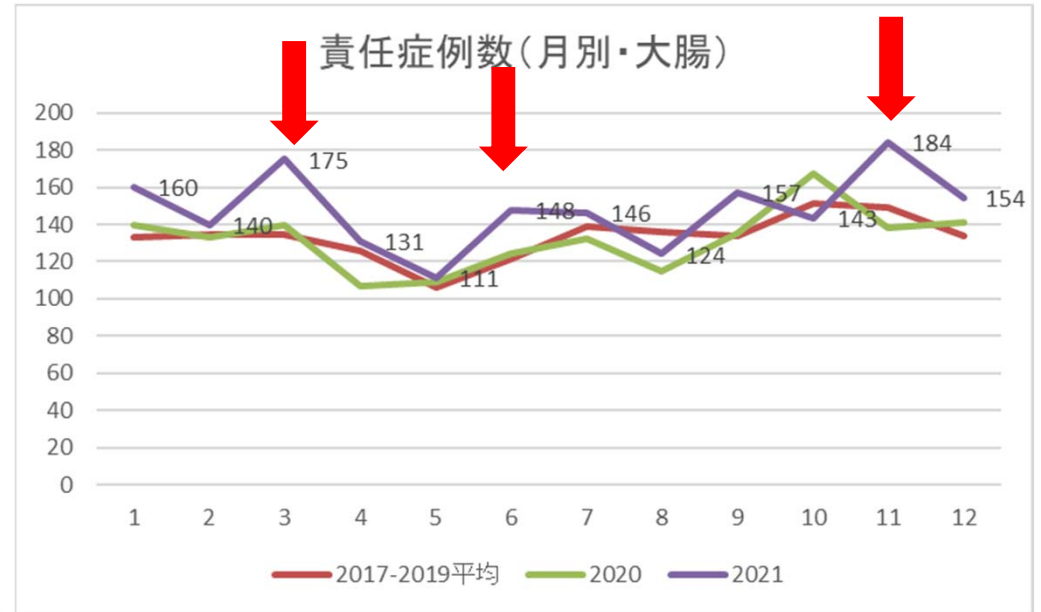
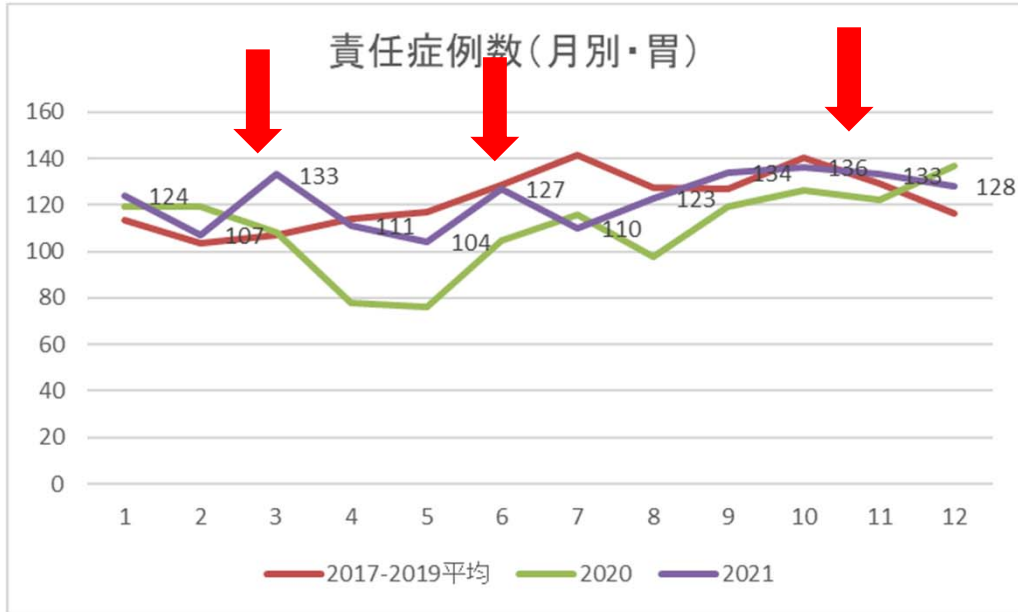
26部位中18部位で増加、8部位で減少。

がん検診実施部位の中では、子宮頸部がわずかに減少した。



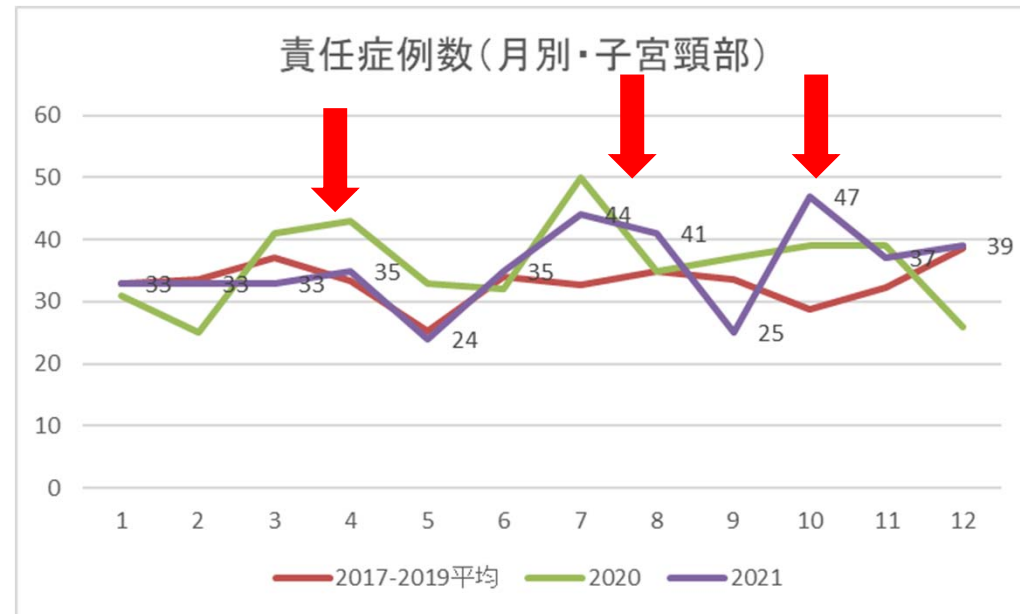
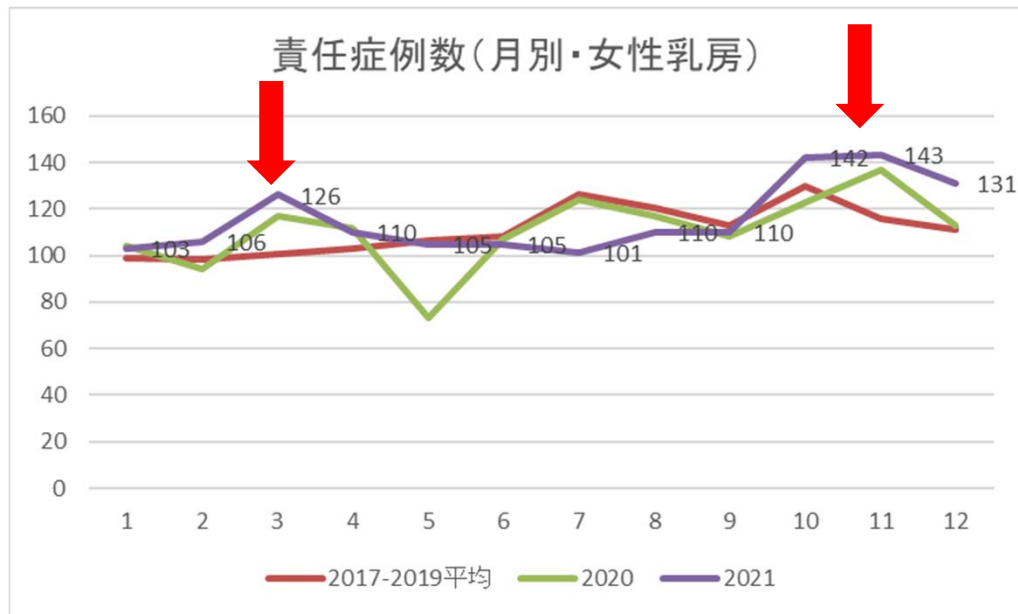
1 全施設合計・責任症例数・部位別

胃、大腸、肺は3月、6月、10～11月にかけて3～4回のピーク。



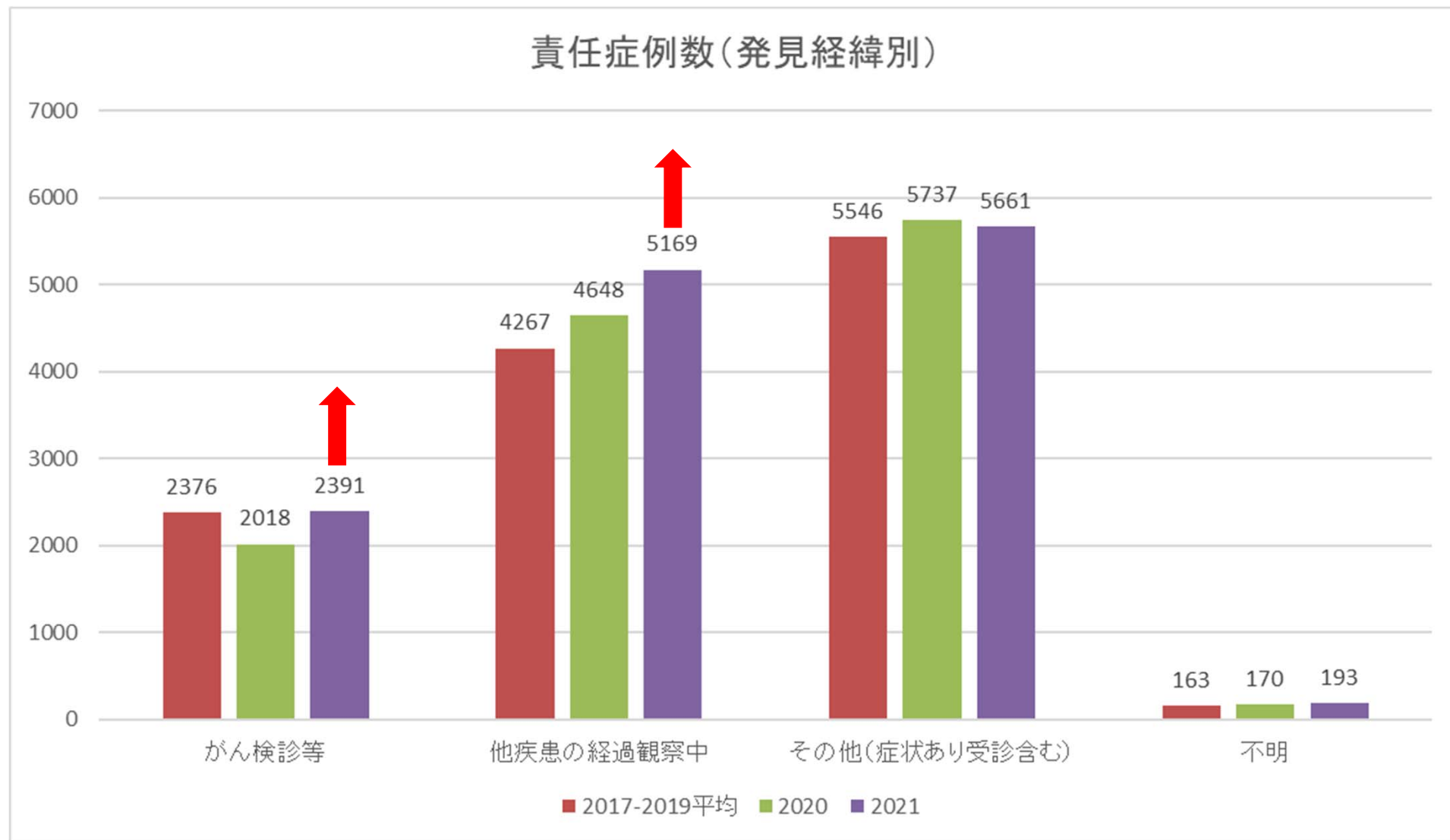
1 全施設合計・責任症例数・部位別

乳房と子宮頸部も、3～4月、7～8月、10～11月にかけて2～3回のピーク。



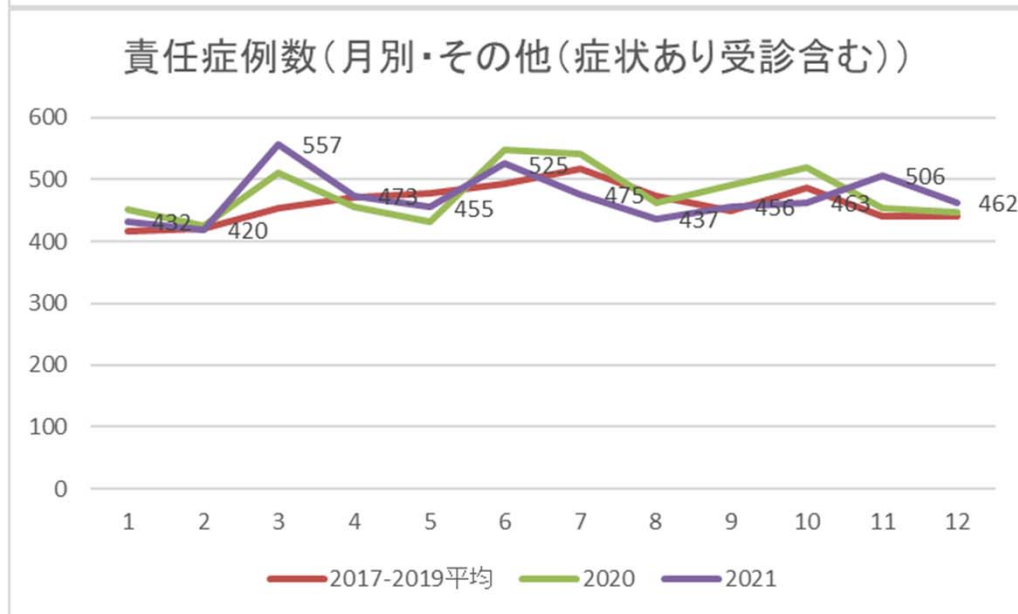
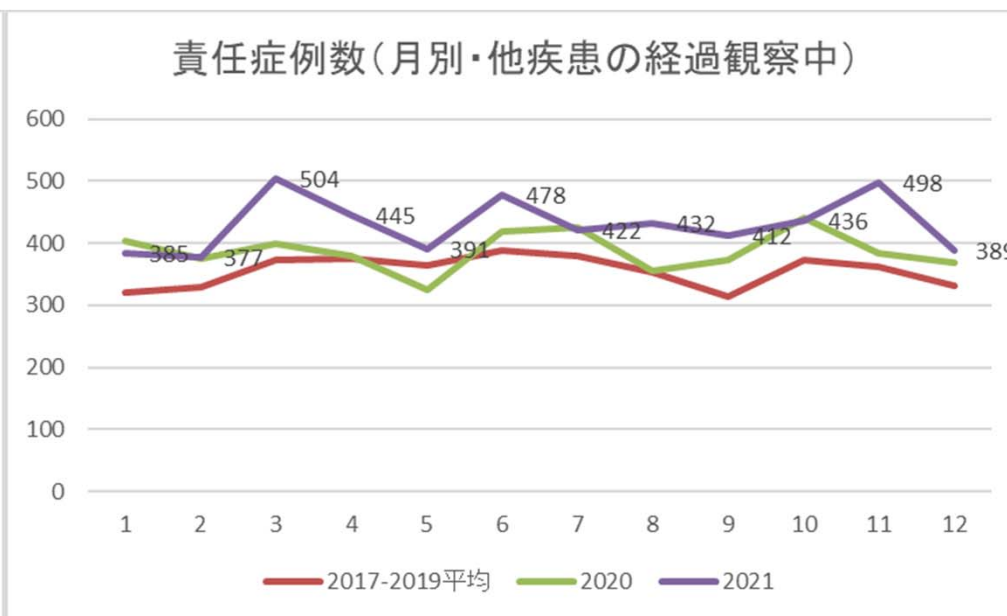
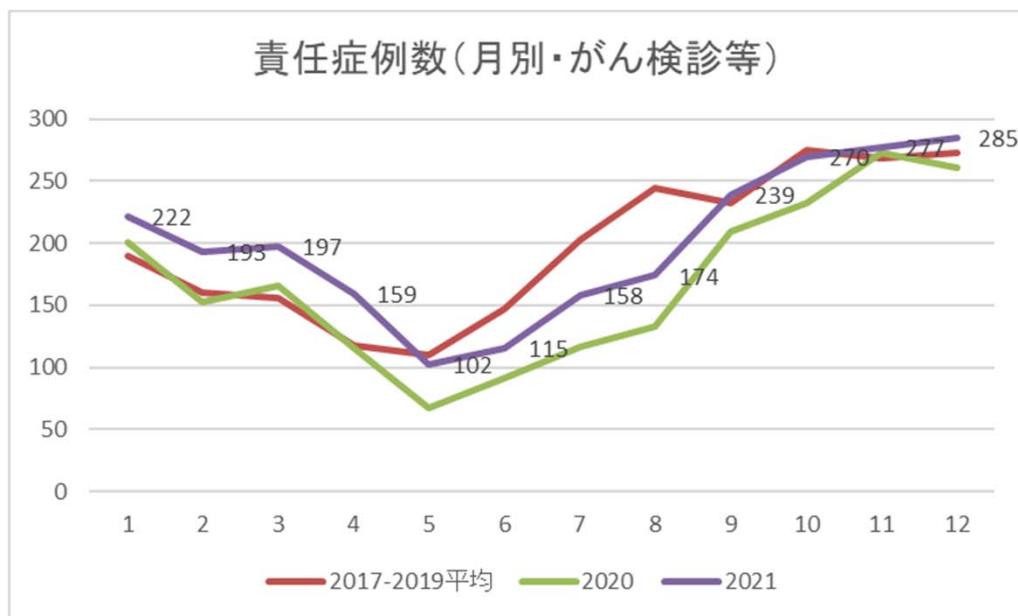
1 全施設合計・責任症例数・発見経緯別

がん検診等（健康診断、人間ドックを含む）は増加し、2017-2019年を上回り、
他疾患の経過観察中の発見は、2年連続で増加。
その他（症状ありでの受診含む）は減少。



1 全施設合計・責任症例数・発見経緯別

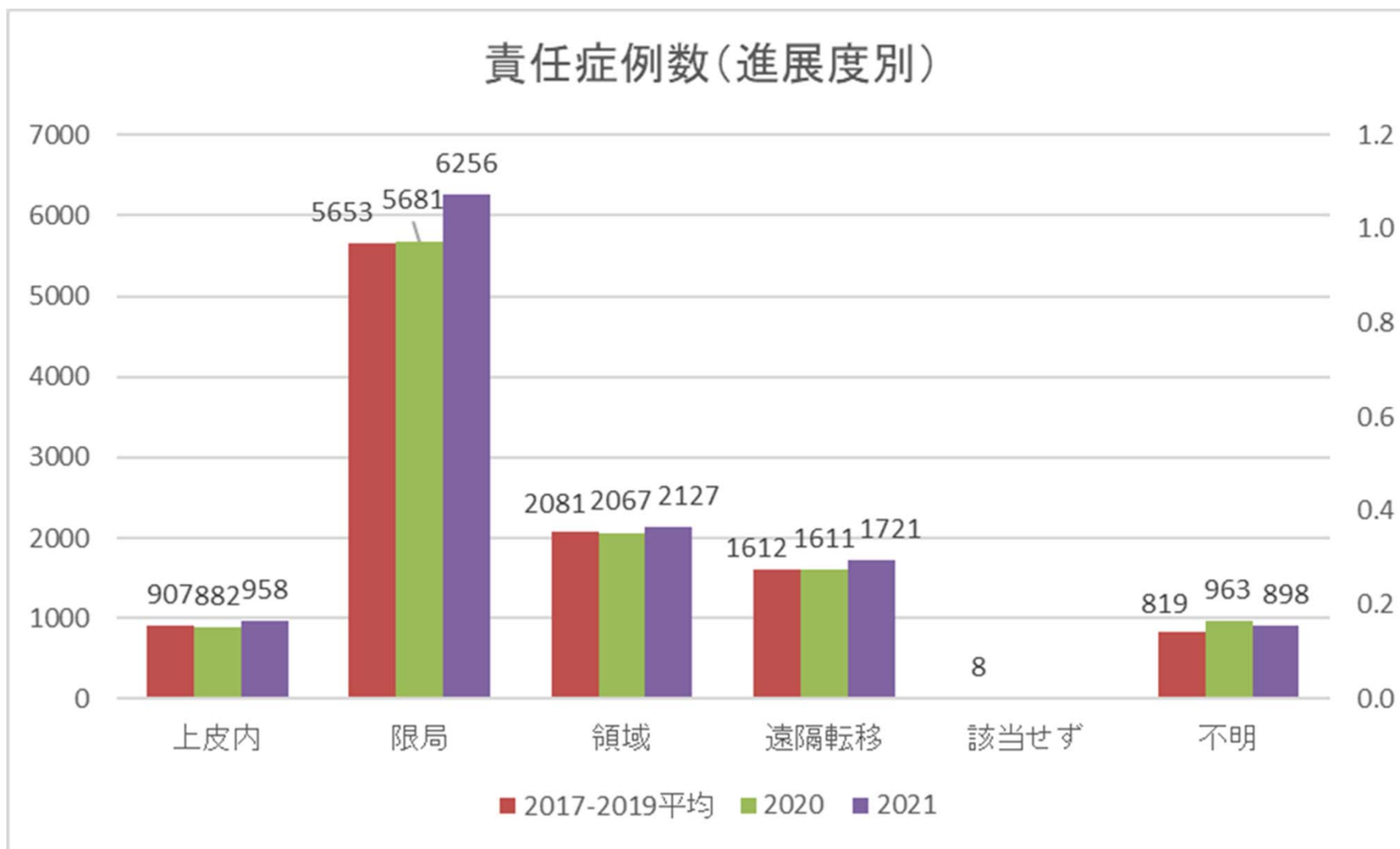
がん検診等は、1~4月が増加し、5~8月が減少し、他疾患の経過観察中の発見は、年間を通じて増加。その他（症状あり受診を含む）は6~10月で減少。



1 全施設合計・責任症例数・進展度別

上皮内、限局、領域、遠隔転移のすべてが増加し、いずれも2017～2019年を上回った。

2017～2019年、2020年、2021年の各年での全体に占める遠隔転移の割合は、それぞれ14.5%、14.4%、14.4%であり、大きな違いはなかった。

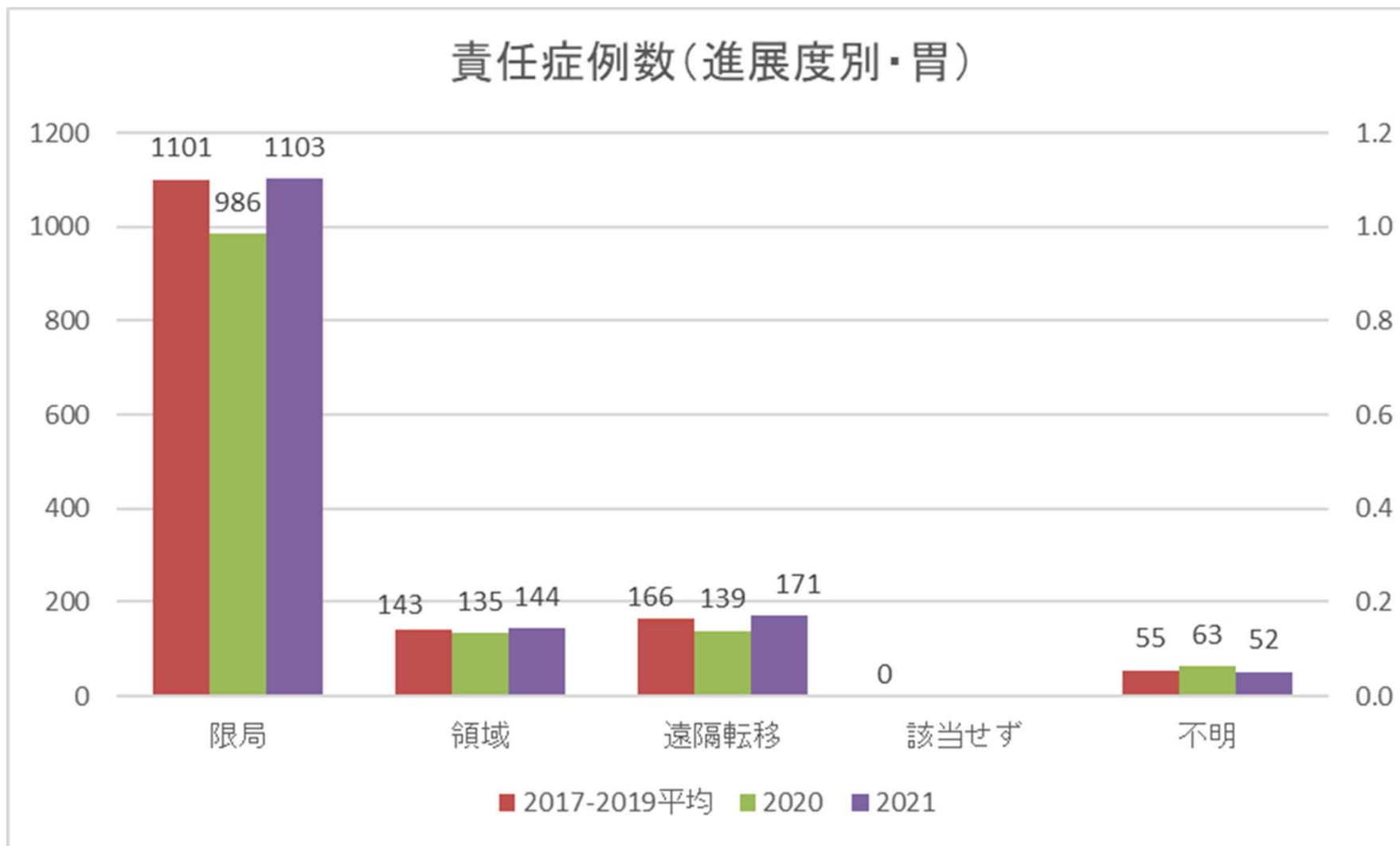


悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、白血病、他の造血器腫瘍を除いて集計

1 全施設合計・責任症例数・進展度別

がん検診実施部位のうち、胃では、限局、領域、遠隔転移のすべてが増加し、いずれも2017～2019年を上回った。

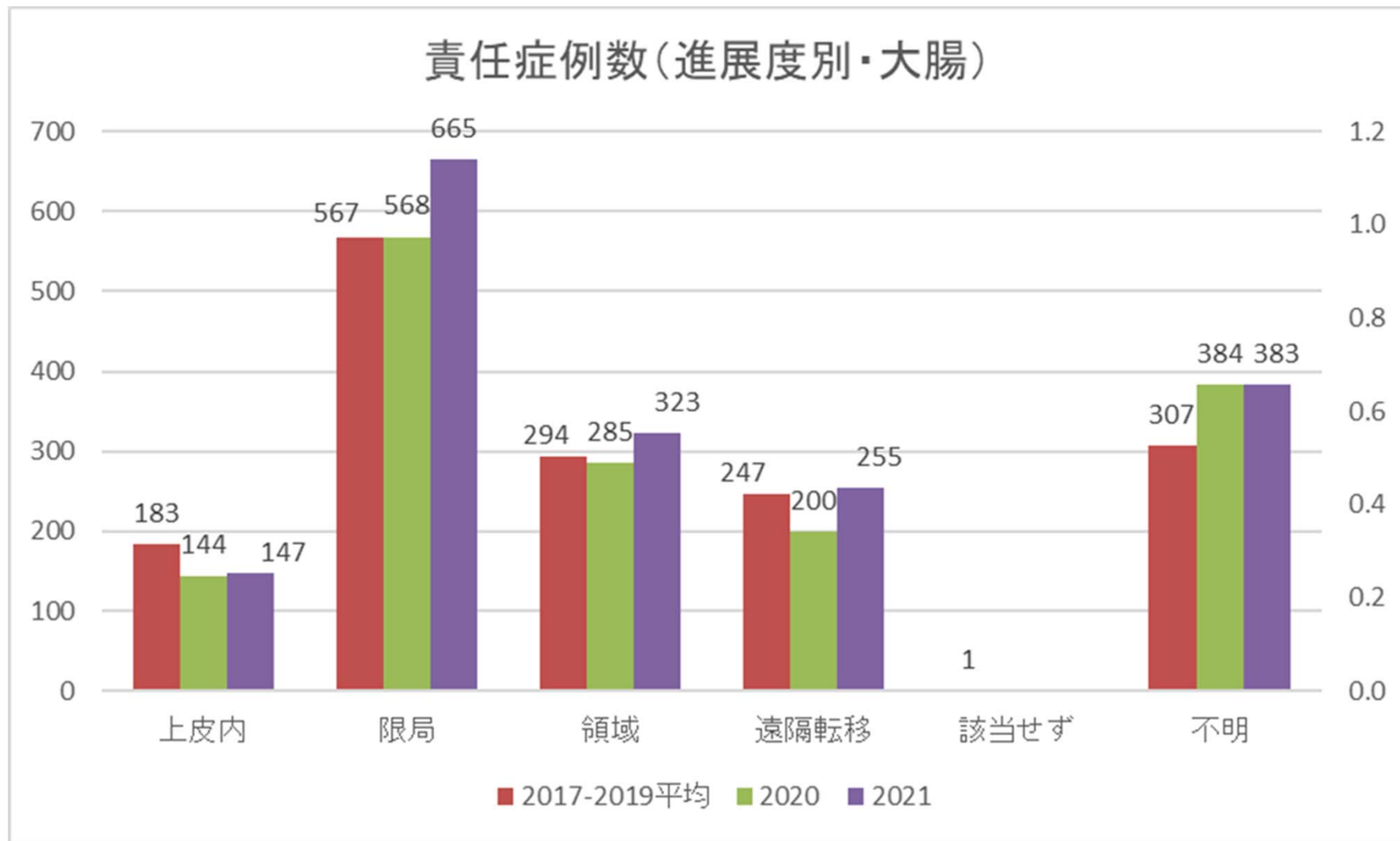
2017～2019年、2020年、2021年の各年での全体に占める遠隔転移の割合は、それぞれ11.3%、10.5%、11.6%であり、いったん減少し、増加していた。



1 全施設合計・責任症例数・進展度別

上皮内、限局、領域、遠隔転移のすべてが増加し、上皮内以外は2017～2019年を上回った。

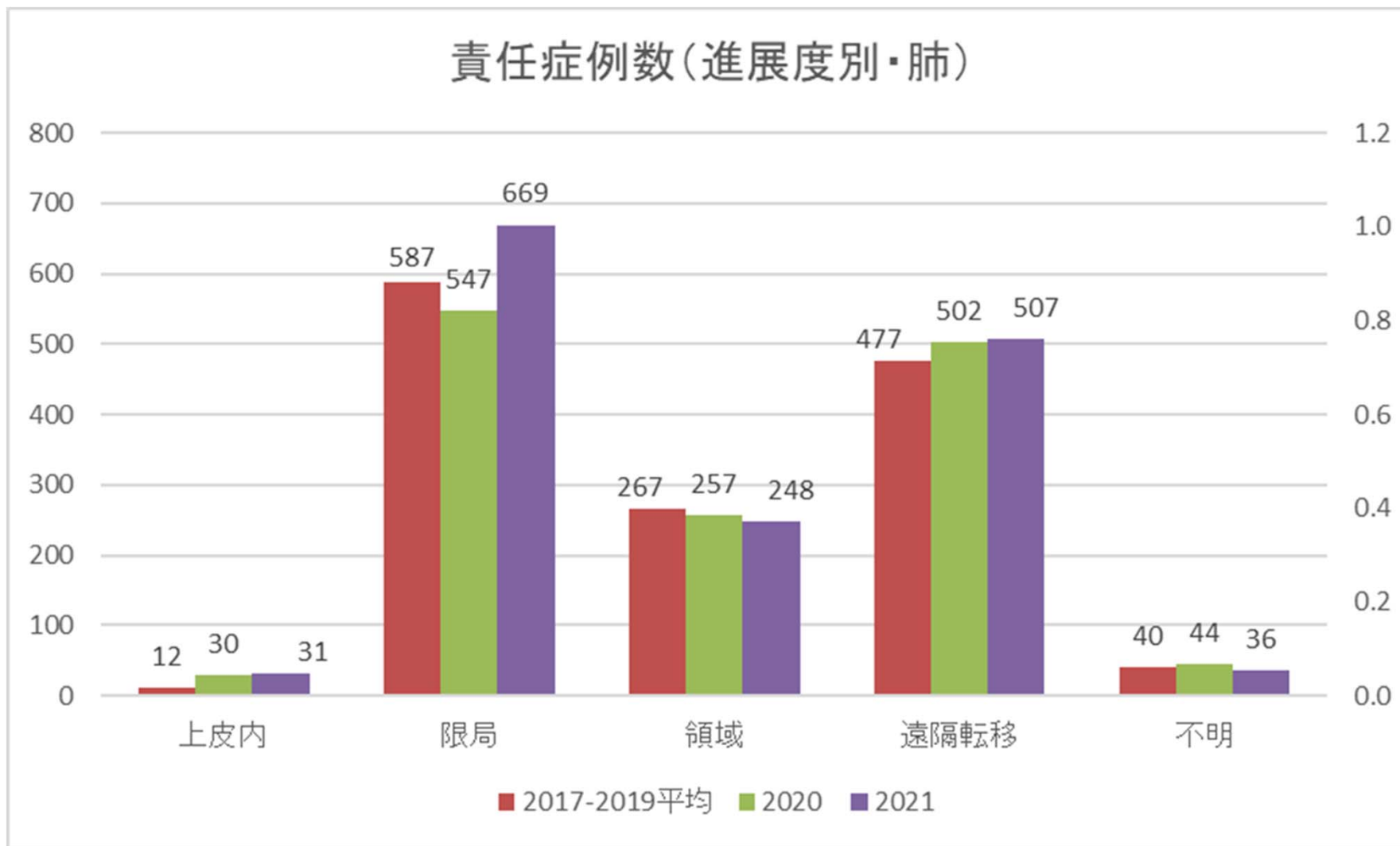
2017～2019年、2020年、2021年の各年での全体に占める遠隔転移の割合は、それぞれ15.5%、12.7%、14.4%であり、いったん減少し、増加していた。



1 全施設合計・責任症例数・進展度別

上皮内、限局、遠隔転移が増加し、いずれも2017～2019年を上回った。

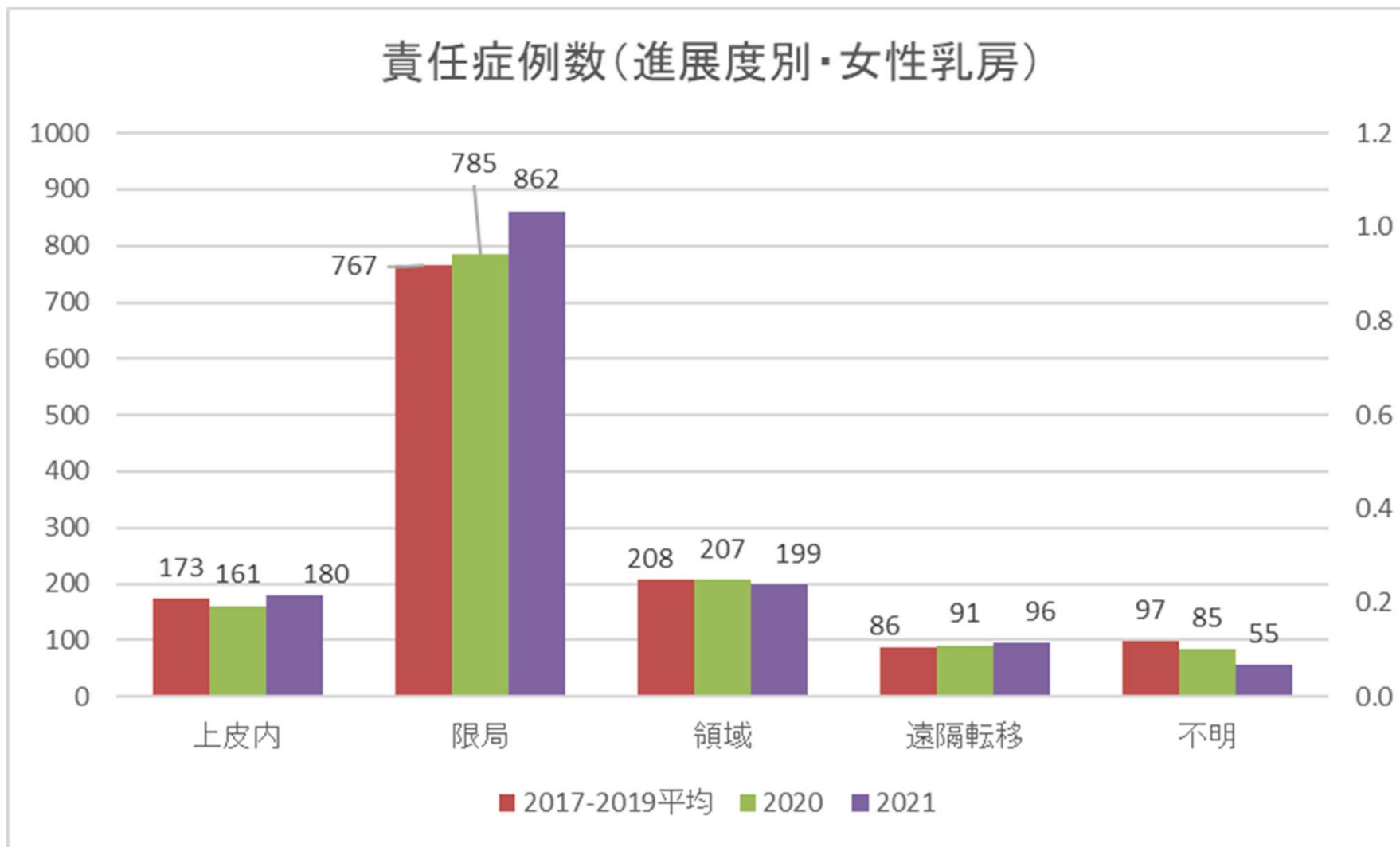
2017～2019年、2020年、2021年の各年での全体に占める遠隔転移の割合は、それぞれ19.3%、18.6%、16.6%であり、減少傾向にあった。



1 全施設合計・責任症例数・進展度別

上皮内、限局、遠隔転移が増加し、いずれも2017～2019年を上回った。

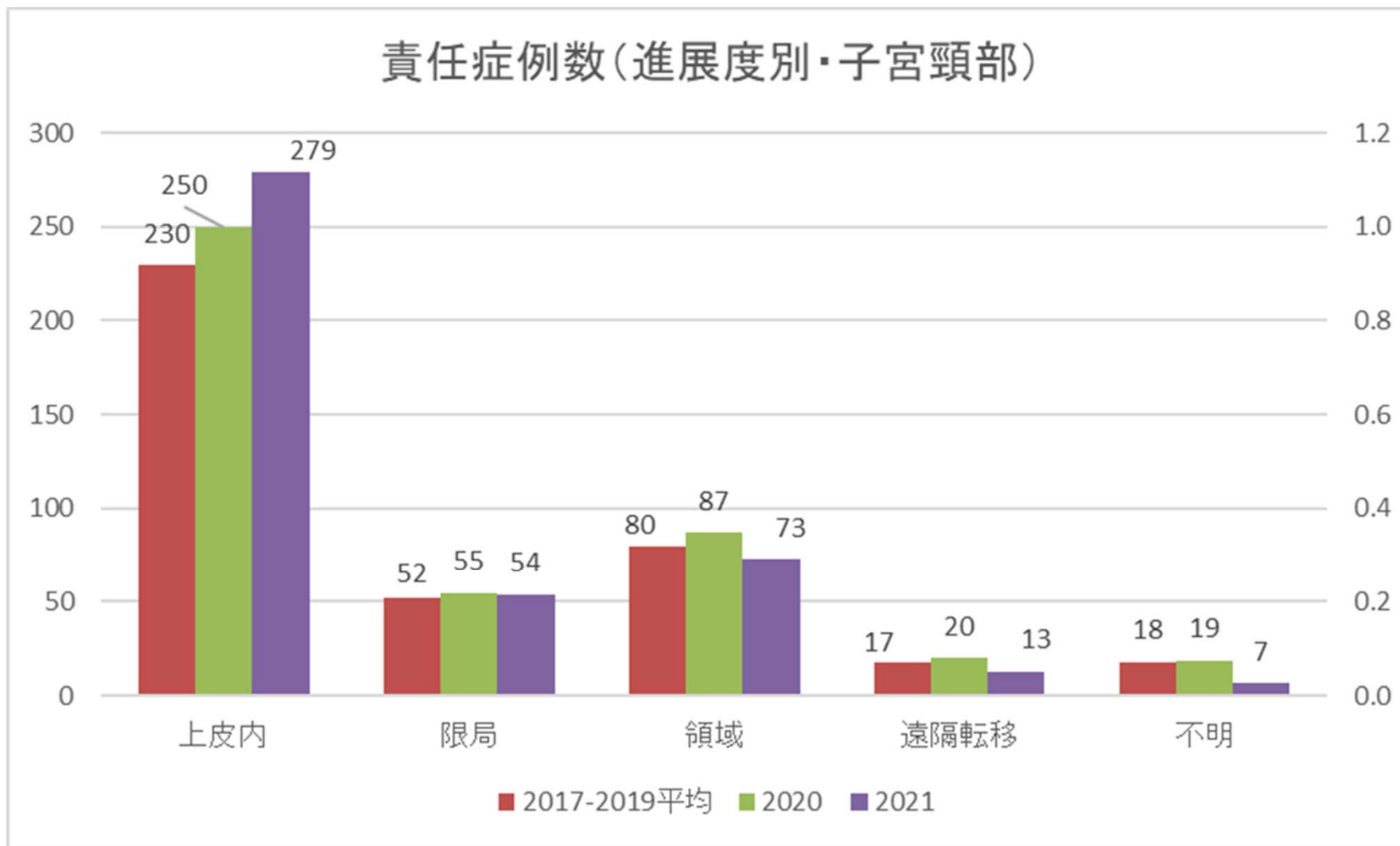
2017～2019年、2020年、2021年の各年での全体に占める遠隔転移の割合は、それぞれ15.6%、15.6%、14.3%であり、横ばいから減少傾向にあった。



1 全施設合計・責任症例数・進展度別

上皮内のみが増加し、2017～2019年を上回った。

2017～2019年、2020年、2021年の各年での全体に占める遠隔転移の割合は、それぞれ20.1%、20.2%、17.1%であり、横ばいから減少傾向にあった。



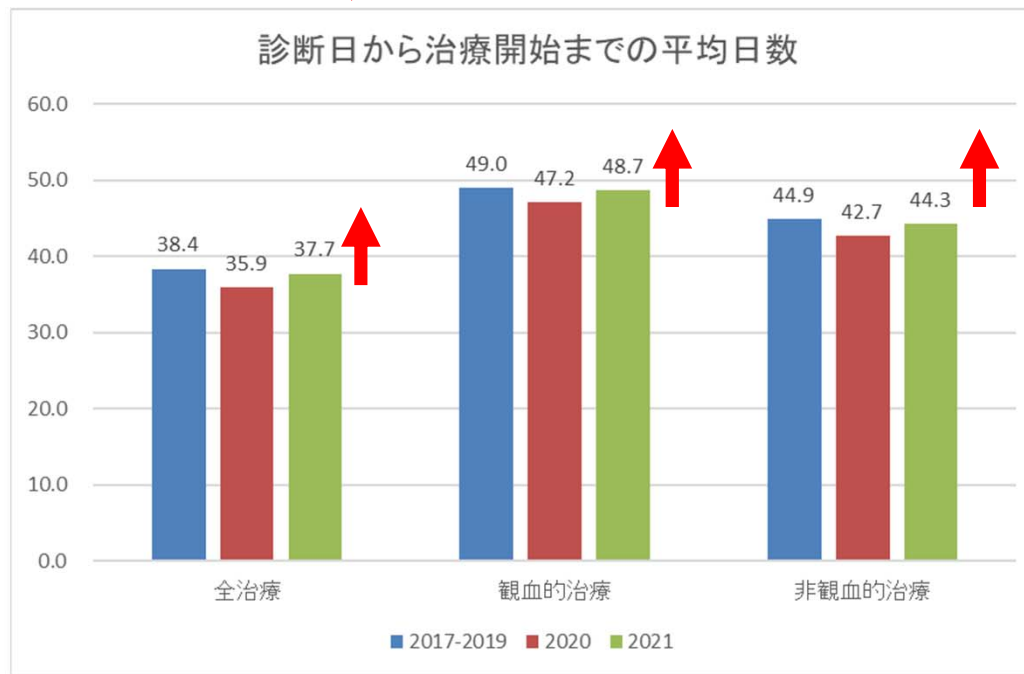
まとめ1

全施設での症例数

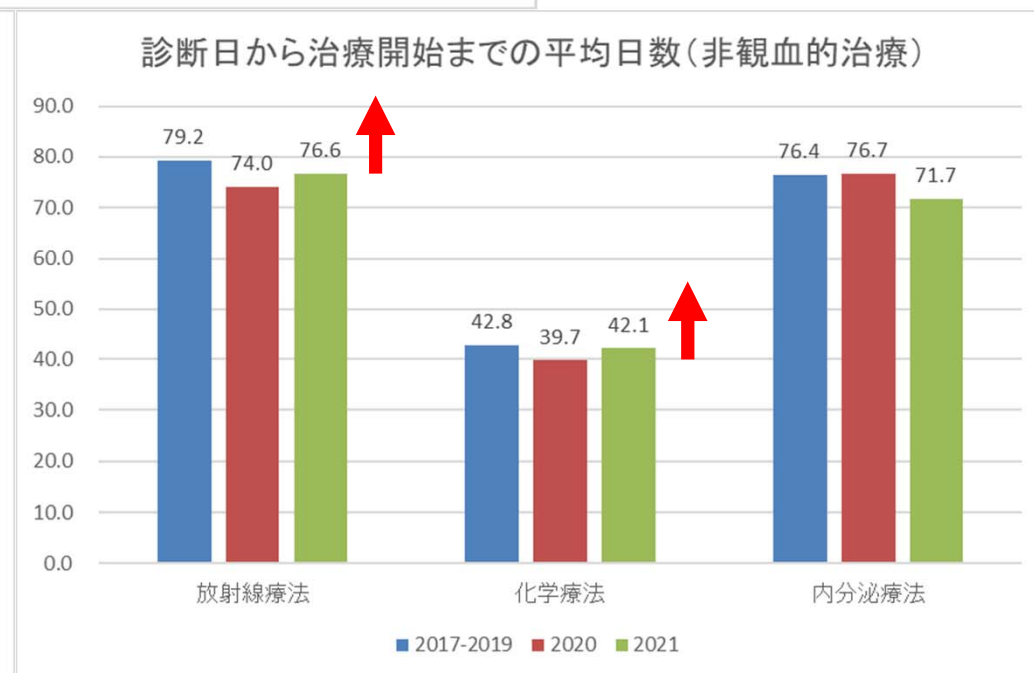
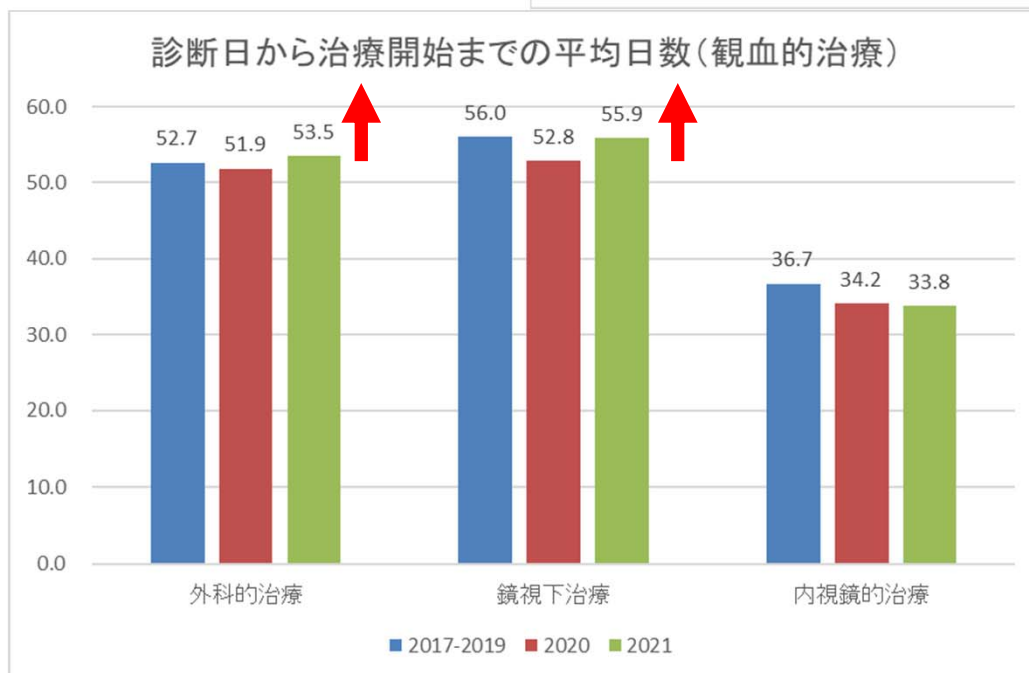
- 診断・治療を担った責任症例は、2017-2019年の平均と比較すると、2020年は1.79%の増加に対し、2021年は6.69%の増加。
- 月別では、3月、6月、11月の3つのピークがあった。
- 男女別で違いはなく、60代～80代での増加が全体の増加に寄与していた。
- 26部位中18部位で増加。がん検診実施部位の中では、子宮頸部がわずかに減少した。
- がん検診等による発見は2020年よりも増加し、2017-2019年の平均を上回った。
- 進展度別では、上皮内、限局、領域、遠隔転移のすべてが増加し、いずれも2017～2019年を上回ったが、がん検診実施部位で見ると、胃及び大腸では、遠隔転移の増加率がいったん減少し、増加していた。
- 2021年は、症例数が増加していた。がん検診実施部位の中で、胃及び大腸では、遠隔転移の増加率の変動があった。今後の動向に注意する必要があると考えられた。

2 全施設合計・診断から治療開始までの日数

予想に反して2020年は短縮したが、2021年は日数が増加に転じた。

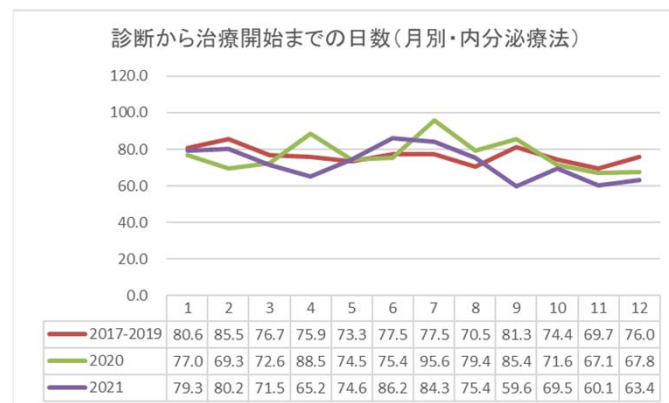
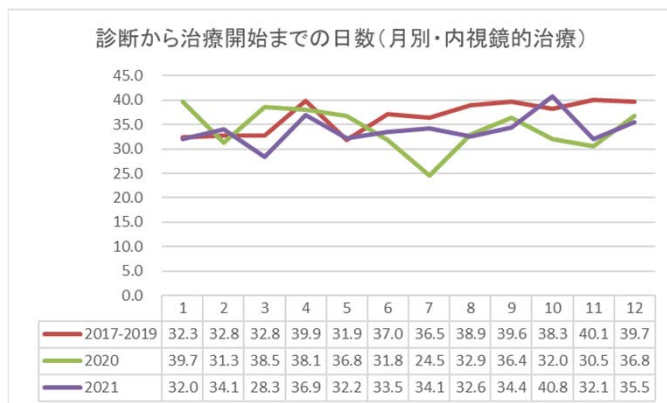
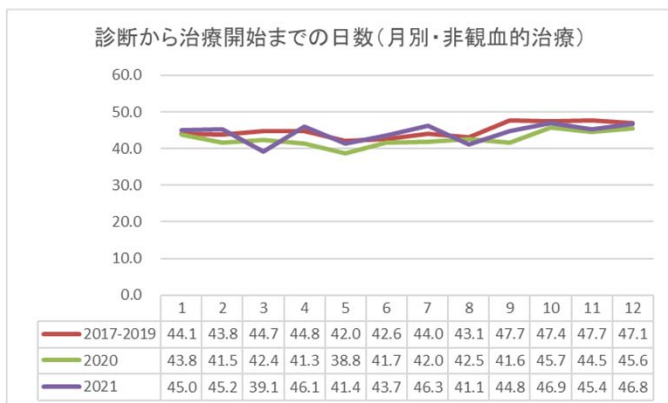
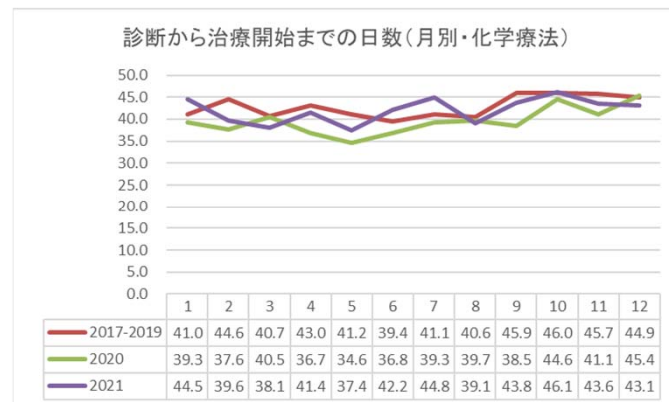
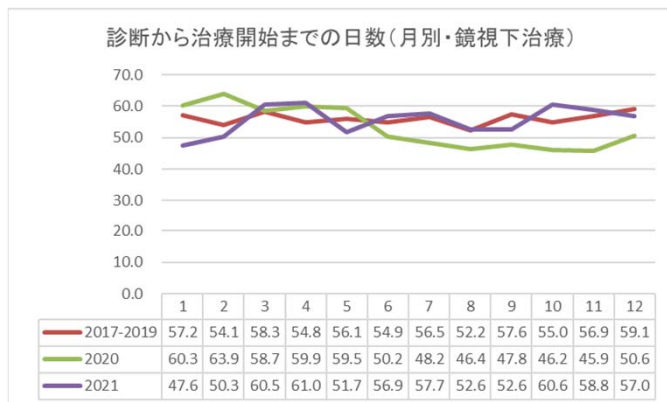
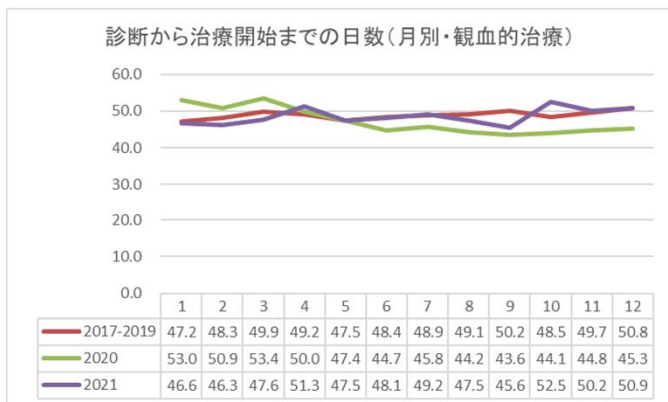
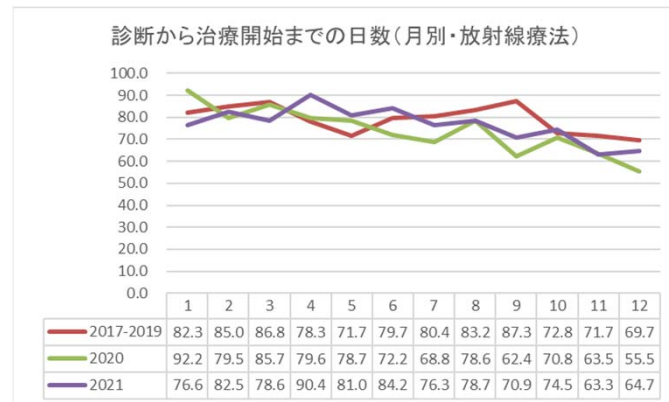
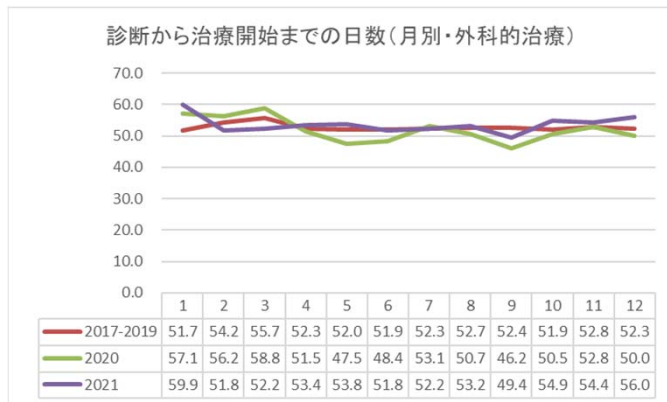
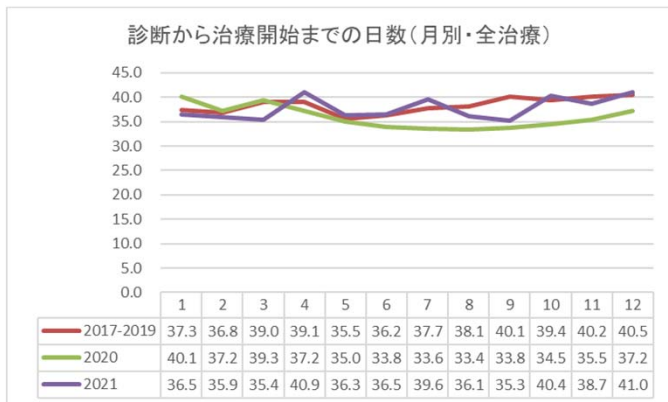


○全治療
...観血的治療または非観血的治療のいずれかを実施したもの。
○観血的治療
...外科的治療、鏡視下治療、内視鏡的治療のいずれかを実施したもの。
○非観血的治療
...放射線療法、化学療法、内分泌療法のいずれかを実施したもの。



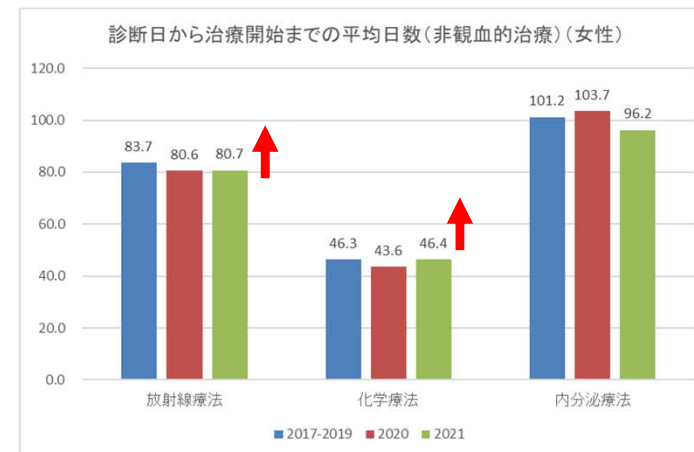
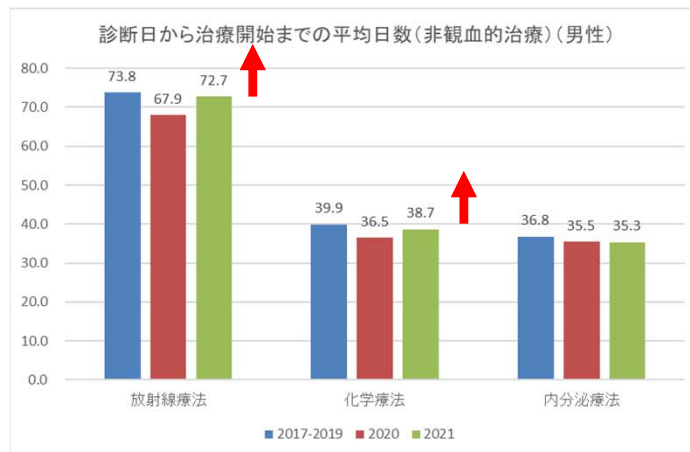
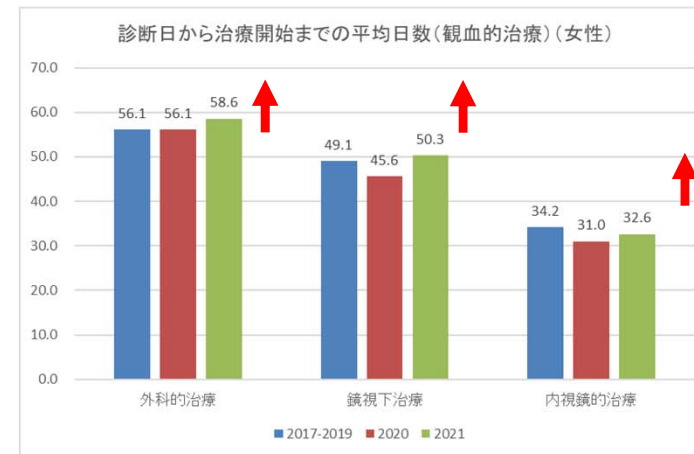
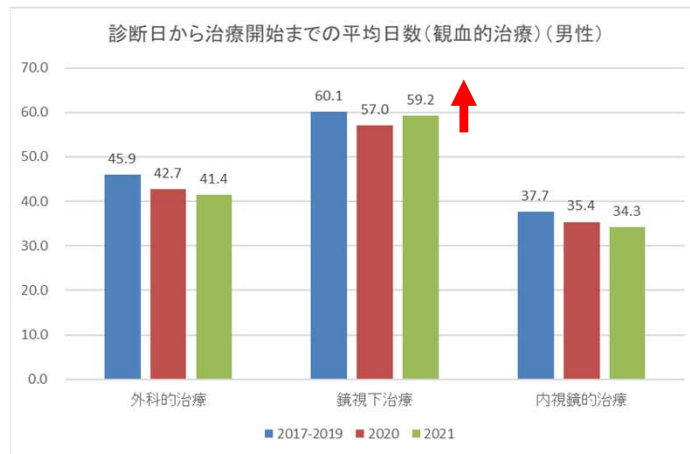
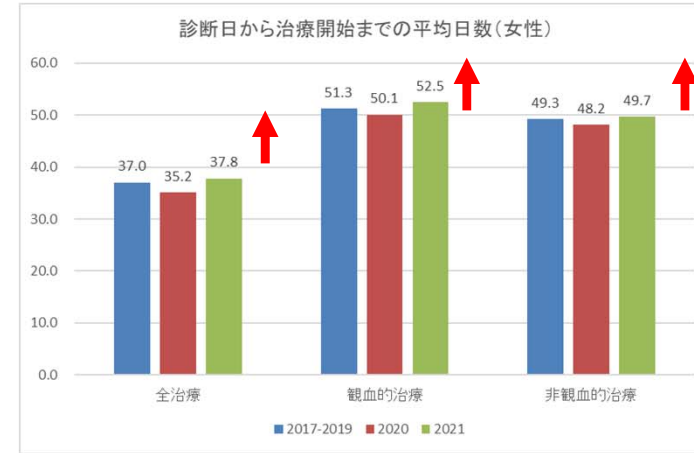
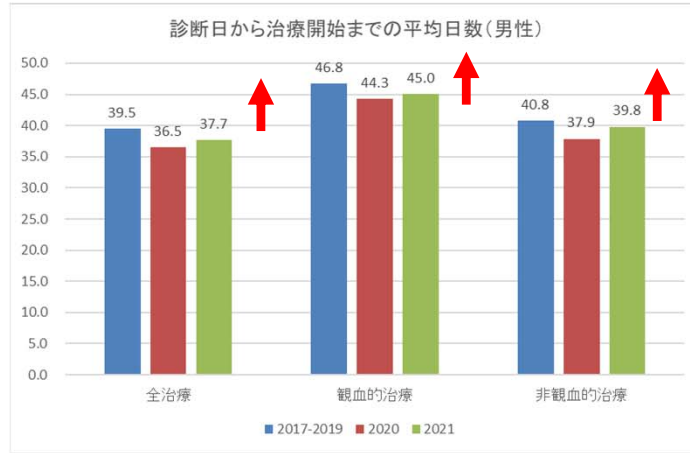
2 全施設合計・診断から治療開始までの日数

月別に見ると、4月以降増加し、2017-2019年と近い値で推移していた。
内視鏡的治療と内分泌療法は、低めの値で推移した。



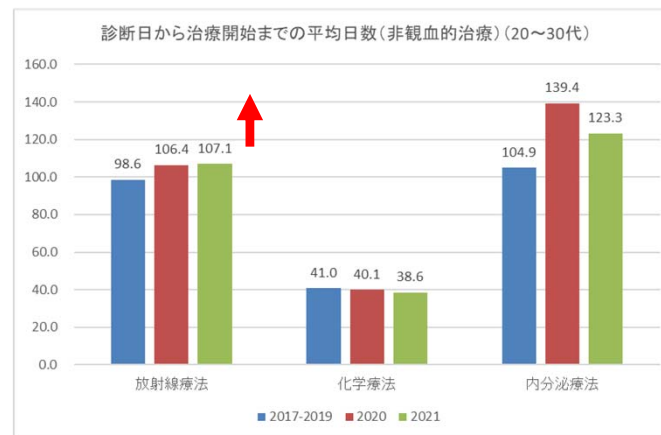
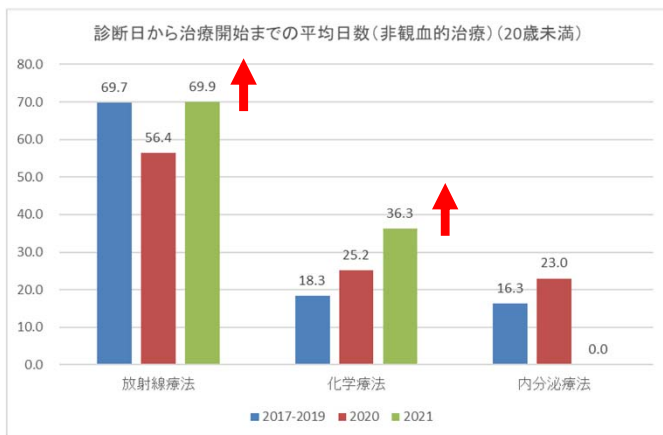
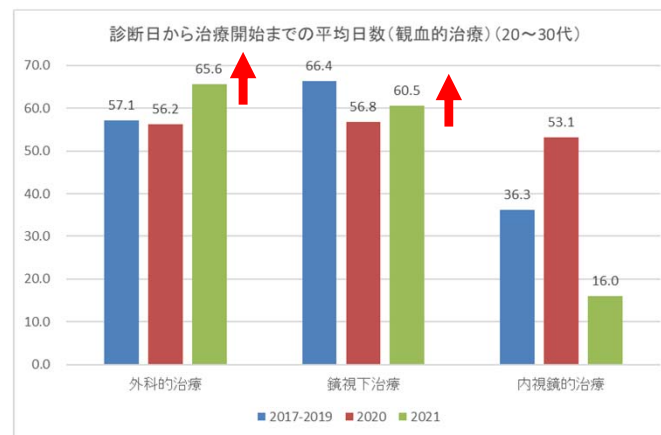
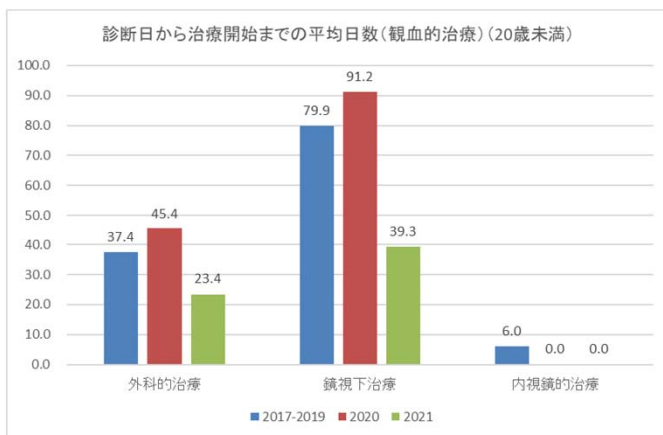
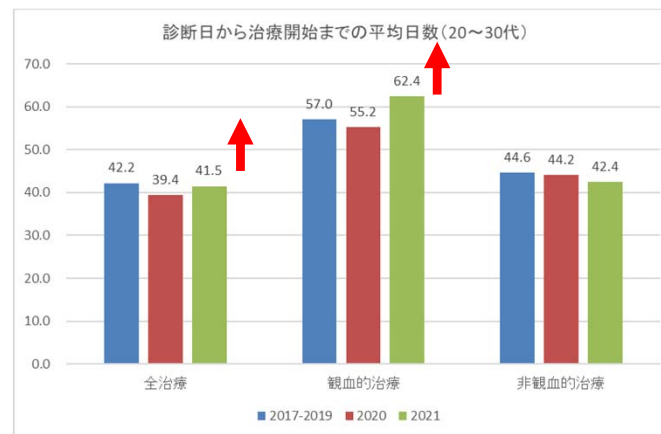
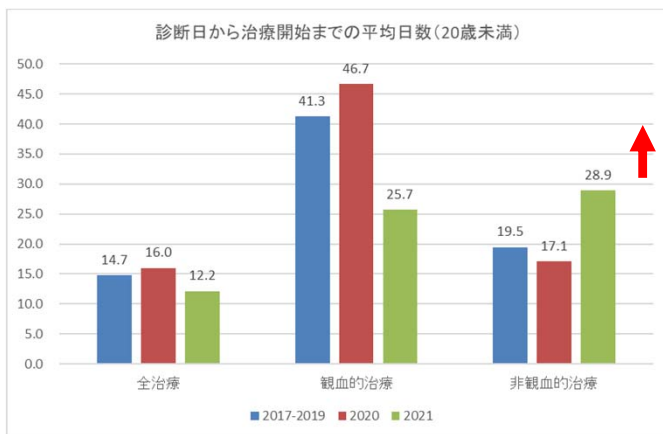
2 全施設合計・診断から治療開始までの日数

男女別では、男女とも多くの治療で日数は増加



2 全施設合計・診断から治療開始までの日数

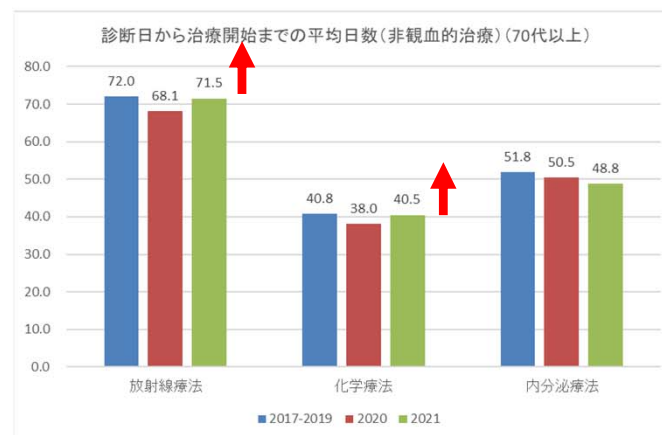
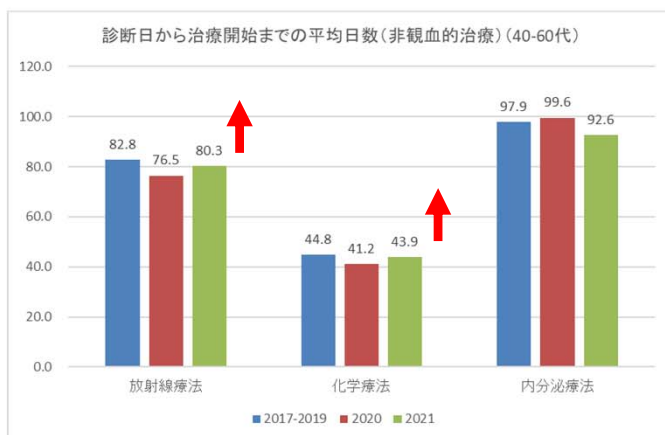
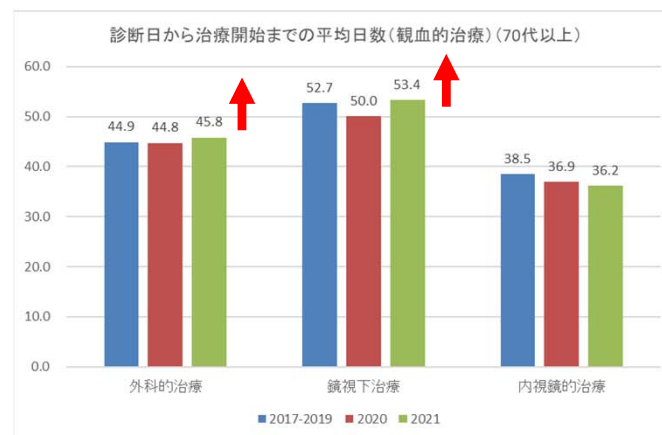
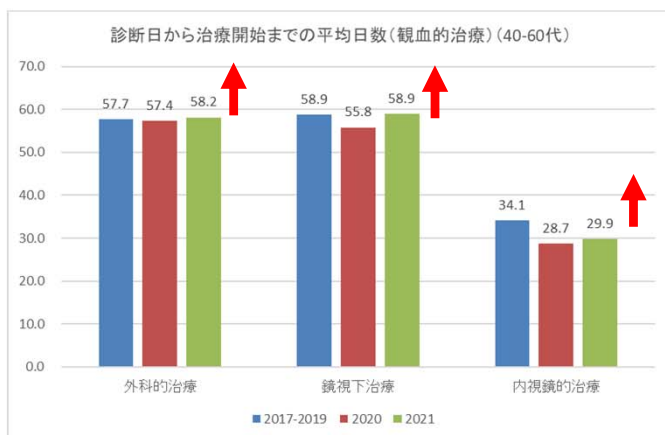
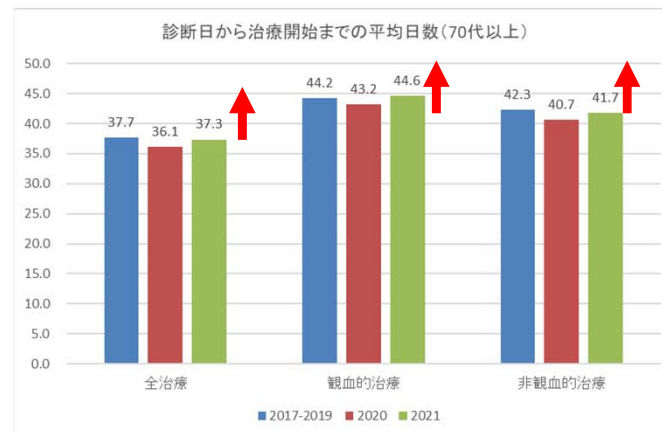
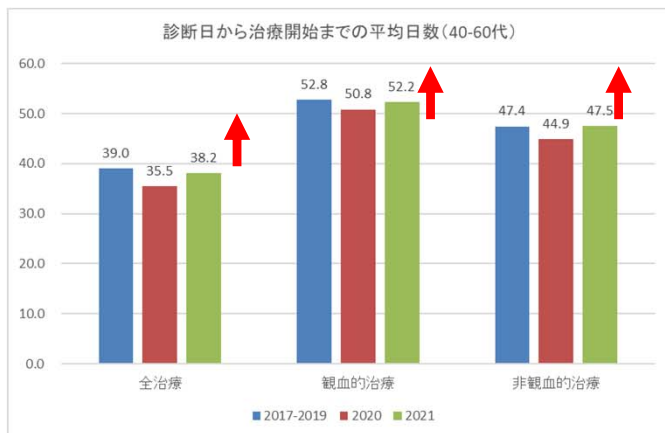
年代別では、**20歳未満**で、**非観血的治療**（放射線療法、化学療法）で増加。
20～30代では、**観血的治療**（外科的治療、鏡視下治療）、**放射線療法**で増加。



2 全施設合計・診断から治療開始までの日数

40～60代では、内分泌療法を除くすべての治療で増加。

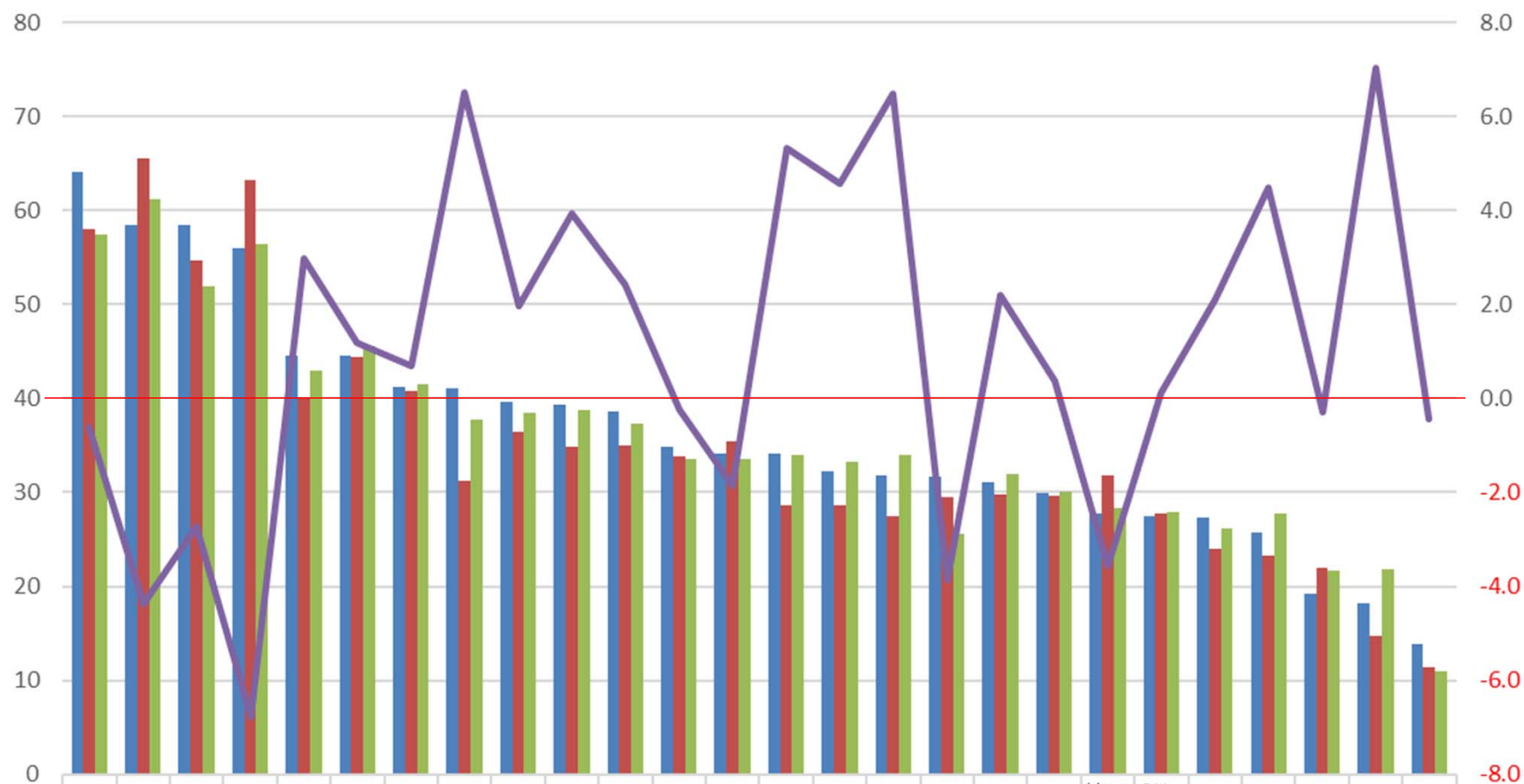
70代では、内視鏡的治療と内分泌療法を除くすべての治療で増加。



2 全施設合計・診断から治療開始までの日数

26部位中16部位で2020年よりも増加し、10部位で減少した。

診断日から治療開始までの平均日数(部位別)



	前立腺	子宮頸部	腎・尿路	甲状腺	子宮体部	胃	胆嚢・胆管	骨・軟部	乳房	肝臓	食道	喉頭	口腔・咽頭	肺	直腸	脾臓	膀胱	皮膚	その他	他の造血器腫瘍	脳・中枢神経系	結腸	悪性リンパ腫	卵巣	多発性骨髄腫	白血病
2017-2019	64.1	58.4	58.4	56	44.5	44.5	41.2	41.1	39.6	39.3	38.5	34.8	34.1	34.1	32.3	31.7	31.7	31.1	30	27.8	27.5	27.3	25.7	19.2	18.3	13.9
2020	58	65.6	54.7	63.2	40	44.4	40.8	31.2	36.5	34.8	34.9	33.8	35.5	28.7	28.7	27.5	29.5	29.8	29.7	31.8	27.8	24	23.3	21.9	14.7	11.5
2021	57.4	61.2	52.0	56.5	43.0	45.5	41.4	37.7	38.4	38.8	37.4	33.6	33.6	34.0	33.3	33.9	25.6	31.9	30.1	28.3	27.9	26.1	27.7	21.6	21.8	11.0
2021年増加率	-0.6	-4.4	-2.7	-6.8	3.0	1.2	0.7	6.5	2.0	3.9	2.4	-0.2	-1.9	5.3	4.6	6.5	-3.9	2.2	0.4	-3.6	0.1	2.1	4.5	-0.3	7.0	-0.4



まとめ2

全施設での治療開始までの日数

- 予想に反して2020年は短縮したが、2021年は日数が増加に転じた。
- 治療法別では、内視鏡的治療と内分泌療法を除き、増加した。
- 月別に見ると、4月以降増加し、2017-2019年の平均と近い値で推移していた。
- 男女別では、違いはなかった。
- 年代別では、各年代で日数が増加している治療が確認され、次のような違いがあった。
 - 20歳未満...非観血的治療で2017-2019年よりも日数が増加
 - 20代以上...観血的治療などで2017-2019年よりも日数が増加
- 26部位中16部位で2020年よりも増加していた。
- 2021年は、治療開始までの日数は増加傾向にあることが確認された。コロナの流行により、がんの治療開始に遅れが出ている可能性が考えられた。